

ウマ男に転生したら人生賭けすぎた…

クロス・バアリー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

事故で亡くなつた主人公が神に転生されダイオウ（オリジン）のウマ男として転生しトレセン学園（男子校）などで走る⋮

あらすじ考へないので下手くそでスンマセン

目 次

トレセン学園（男子校）編

始まり	1
虚しさ…怒り	8
信じる	19
親友	22
休日	32
前を向く（シンボリグラン編）	43
薬の革命	50
夏合宿と言う名の旅行	59
修行？	69
移転	72
トレセン学園（中央）編	72
憂鬱	76
模擬レース	79
トレーニング	84
本部は無理難題をおつしやる…つて普通ならなるのか？	88
再発	94
ダイオウの転生前の競走馬たち	99
最後の黒い一冠	111
菊花賞のその後	116

トレセン学園（男子校）編

始まり

自分 それにしてもこのウマ娘ってゲーム…結構面白いな…

（白い世界）

自分 とまあその後の記憶がないんだが…ここ天国か？

神 フオフオフオフオお主困つとるようじやのう

自分 ジやあ早く転生させてくれ

神 ……あのゝせめて疑問に思つて…ここ何処なのかとか俺は死んだのか…とか：

自分 いやだつて…こういう場面は大抵自分は死んでそこに神様が現れて別の世界に転生させるのが定番だし…

神 いやそれでもよ！せめて！せめてワシの話を聞いてくれ

自分 わかった わかったからその悲観的な顔は止めてくれ…

（神様がちゃぶ台を出す）

神 まあここに座りなさい

ダイオウ （なぜちゃぶ台？）

神 最近天界でも転生が流行つておつてな…それでやつてみようつて事でやることにはなつたんじやが…

自分 何か問題でも？

神 紙料が少なくての…

自分 はい？

神 転生させて偉業をなし得た人物に応じてボーナスが出るのじゃ…それが！ワシが転生させた者たちは皆！極悪非道に走るか…低凡に終わる…それでワシは神の中で最弱の神と言われておる…

自分 ふくん

神 ジやから！ワシはお主にチート…までは行かんがお主が思う人物より強くすることは出来る…と思うが期待せずにの…

自分 （あれ？なんかもう転生するようになつてない？）待つた…俺まだ転生するか決めてないんだけど…

神 そうじやの…お主が死ぬ前に遊んでいたウマ娘の世界に転生させようかの…

自分 (あつ…ムシデスカソウデスカ…)

神 さて！お主は誰よりも強くなりたい！

自分 もう勝手でいいですよ…

神 そう言うな…いい加減に選んでハルウララよりも強くななどとなつたら意味がない…ワシの生活（給料）のために強いウマ娘を思うんじや！

自分 強いウマ娘…ね（やべく確かに死ぬ前にウマ娘やつてたけど…24時間しかまだやつてないから…全部のキャラがわからないんだよな）まあ競馬 자체ルールもほとんどの馬の名前も知ってるからいいんだけど…強いウマ娘となると…誰だろう…）

神 思い付いたか？

自分 (神…神…皇帝….) 皇帝だ！

神 お！こ…皇帝？あのシンボリルドルフより強くでいいのか？

自分 ああ…その代わり俺が偉業をなし得てみるから一つ頼みがあるんだけど

神 何でも言つてみい チート能力を付けろは無理じゃが…

自分 シンボリルドルフと幼馴染みにしてほしい…そして現実世界で俺の馬を産み出してほしい…

神 まあそれぐらいなら問題ないはずじや…その馬の名は何にするんじや？

自分 こんな感じで

(自分が神様の耳にささやく)

神 それはかなり強い馬とウマ娘になるの…

自分 可能？

神 ワシを誰だと思つてる！神様じやぞ！余裕じや！

自分 さつきの対応とは違うけどまあいや…じゃあそれでよろしく

神 任せておけい！ワシの生活のために頑張つてくれよ…

自分 (それは揺るがないんだね…)

(クロちゃん…クロちゃん!…)

ダイオウ うん? (綺麗な空が見えるな…寝てたのか…)
い夢を見るもんだな… (転生して5年か…この世界に来て…)

ルナ 起きた?

ダイオウ うお!

ルナ えへへ

ダイオウ ルナか…ビックリさせるなよな…

ルナ ビックリさせようとしてないよ!それにさつきから呼び掛けたのにクロちゃん全然起きないんだもん!

(この子はルナ…分かるように言えばシンボリルドルフだ…あのクールな生徒会長がまだ子供の時はこんな無邪氣なんだもんな…てかそれより…)

ダイオウ ルナ…そのクロちゃんつて呼び方やめてくれ…

ルナ なんで?

ダイオウ いやだつてクロちゃんつて呼び方されるとお笑いの某サークス団の人みたいだし

ルナ ???

ダイオウ いや、いいや忘れて…

ルナ うん…?

ダイオウ それで?なにして遊ぶの?

ルナ うん 今日はかけっこで遊ばない?

ダイオウ いいよ どこをゴールにする?

ルナ あの大木の所をゴールにしよう

ダイオウ : (あの距離だと…)

ルナ 準備いい? よい

ダイオウ ルナ:待った

ルナ ?どうしたの?クロちゃん?

ダイオウ ここからあの木までだと3900mまだもう少し短くし

よう

ルナ えーここからがいい

ダイオウ わがまま言わない…ここで怪我して中央で走れなく

なつてもしらないよ

ルナ むー……わかつた……クロちゃんが私を心配してくれるだけで
も嬉しいもん

ダイオウ はいはい……じゃあ3000メートルにするか

ルナ うん！

ゴールは……木の棒で線書くか

ダイオウ ジやあここからね

ルナ わかつた！行くよ！

ダイオウ ようい……ドン！

(二人が走り出す)

ダイオウ やべ！5割程度の力で走つてたらルナに差されるな……

少し本気出すか……

(ダイオウがさらに加速する)

ルナ えつー！くつ！

(ダイオウが後ろを確認する)

(ルナが居なくなつたいた)

ダイオウ やべ～本気で走りすぎたか……

(ルナが座りながら泣いている)

ルナ うつ……うつ……

ダイオウ 転んじやつたか……(まあ当たり前だよな……俺の後ろにス

ピードを上げた後もくつついていこうとすれば脚がもつれるからな

(…)

(ダイオウがルナに駆け寄る)

ダイオウ ルナ！大丈夫？

ルナ うつ……う……うん……大丈夫……

ダイオウ 立てるか？

ルナ …ダメかも……足に力が出ない……

ダイオウ しようがないな……ほら……おんぶしてやるから……早く

乗つて

ルナ でも……

ダイオウ ほら……少し休めば立てるだろうけど念には念をね

ルナ うん！

(ルナがダイオウの背中にくっつく)

ダイオウ さつ帰ろう

ルナ うん！

(ダイオウが帰路につく)

ダイオウ それにしてもルナ…この前より速くなつてたじやん
ルナ えへへ 最近クロちゃんに負けっぱなしからトレーニングしてたんだ…でもまだクロちゃんには敵わないな…本気で走ったのにクロちゃん…もつと速くなるんだもん…私もクロちゃんの隣で走りたいな…

ダイオウ ジゃあルナ…

ルナ ?何?

ダイオウ 中央に行つたとき本気のレースをしよ その時にはきつとルナも俺にも負けないウマ娘になれるから

ルナ ??

ダイオウ まあ分かるように言えば中央に行つたら本気のレースをしよつてこと…

ルナ うん！する！

ダイオウ 約束な…

ルナ うん！ルナ クロちゃんよりも強いウマ娘になる！

ダイオウ その行きだ…楽しみにしてるよ…

(ダイオウの目が覚める)

ダイオウ …ん？…夢の中でもまた夢を見るとは…疲れてるのかな

⋮

ルドルフ ダイオウ…

ダイオウ ん？

(ルドルフがダイオウに近づく)

ダイオウ どうしたの？ルナ？

ルドルフ その学園でルナつて呼ぶの止めないか？恥ずかしいの

だが…

ダイオウ わかつたよ…ルナちゃん…

ルドルフ わかつてないじやないか：

ダイオウ まあまあルナちゃんでもいいんじやない？かわいい
じやん

ルドルフ 入学初日にみんなの前でクロちゃんって呼んだこと謝
るから！

ダイオウ そうだな…まあお陰で初日からクラスのみんなからク
ロちゃんと呼ばれてからかわれたけどね

ルドルフ す…すまない…

ダイオウ まあ許してもいいよ…

ルドルフ 本当か？

ダイオウ ただし！みんなの前でルドルフの事ルナつてみんなの
前で言わせてくれよな

ルドルフ …それは…勘弁してくれ…私の精神が持たない…
(もう少しからかってやろう)

ダイオウ ははは！冗談だよ…

ルドルフ 目が冗談じやないんだが…

ダイオウ まあ冗談はさておき それで？俺に用があるんでしょ
？

ルドルフ そうだ そろそろ模擬レースの時間だぞ

ダイオウ 模擬レース？何言つてるんだ？

ルドルフ ?模擬レースは模擬レースだが？

ダイオウ ああゝそう言う事かあいにく俺はもうG1出てるから
大丈夫だ

ルドルフ 何を言つてるんだ？我々一年生は二年生になるまで
レースには出れないぞ？

ダイオウ あゝこれ…あまり他言無用で頼むわ…

ルドルフ あ…あ…

ダイオウ 僕もさすがにまだ早いって言つたんだけどおじいさま
がお前の足なら行きなりG1でも大丈夫だろつて言つて…それで行
きなりG1出された…

ルドルフ そんなこと可能なのか？

ダイオウ 僕の一族に不可能はないからな…って言つてもおじいさまがウマ娘本部の会長つて言うのもあるんだけどな…

ルドルフ な…なるほどな

ダイオウ （まあ俺もまさか自分の産まれた家がウマ娘の世界で一番の力を持つ名家だとは最初は思わなかつたけど…黒須家…ゲームでは出てこなかつた名前だ…でも産まれて始めてこの一族に宣戦布告は絶対にしてはならないと悟つた…それにどうやらこのウマ娘の世界では徳川家康が天下統一を果たさず自分の家の黒須家が天下統一を果たしたとなつてゐる。つまり俺はその偉大な人物の子孫つて事になるのか…それでも随分偉大な気がするが…まあご先祖様の偉業は置いておこう）だから俺は勝手に自習なんだ：

ルドルフ しかし…なぜ私を呼んでくれなかつたんだ？クロ？

ダイオウ ルナと走るレースまで俺の脚質は内緒にしたいんだよだからおじいさまに頼んでテレビも新聞も出さないようにしてもらつた

ルドルフ そ…それはすごいな…

ダイオウ 誉めるな…何も出ないぞ

ルドルフ なら私もクロと同じレースに出れるよう頑張らないとな…

ダイオウ だな がんばれー

ルドルフ ああ それじゃあそろそろ時間だ 行つてくるよ

ダイオウ 気を付けてな

虚しさ…怒り

(朝)

ダイオウ

ハア…

ルドルフ どうしたんだ？ため息をついて？

ダイオウ いや…朝っぱらから理事長室に呼ばれてな…めんどく

さいなつて思つて

ルドルフ 理事長室に？何かしたのか？

ダイオウ まさか…俺も心当たりがないんだよな…

ルドルフ そうか…

ダイオウ そう言えば…

ルドルフ ルドルフ ?

ダイオウ 近くにトレセン学園男子校が出来るんだってね？

ルドルフ ああ会長の話だとそうらしい なんでもウマ娘とウマ男が同じ寮のためそれを問題視になってきたからだろう

ダイオウ かと言つて俺も男子校に移されると思うとめんどくさい…

ルドルフ クロはあるところでめんどくさがりが出てくるな…

ダイオウ まだ学園に一年も居ないんだぜ…そりや荷物持つて行つたのにまたと思うとマジめんどい

ルドルフ おじい様にお願いしてここに居てもらうことは出来ないのか？

ダイオウ 残念ながら難しいと思う…学園と学園男子校を分けてウマ娘・ウマ男と分けるようだ…それを提案したのが親父なんだよ…
ルドルフ なるほど…もしダイオウが残つたらさらにいろいろ問題になると

ダイオウ そう言うこと…

(トレセン学園男子校生徒会室)

理事長 ダイオウ君 久しぶりね…

ダイオウ 理事長も元気そうで

理事長 ここでは叔母さんと呼んでもいいのだぞ

ダイオウ たづなさんも居るので止めときます（ちなみに理事長との関係は俺の母方の従姉であるため良くはしてもらっているし俺の本気の実力を知つてる人物もある）

理事長 それでここに呼んだのは男子校についてだ

ダイオウ 僕らウマ男は皆そつちに行つてくれつて事ですか？

理事長 そうだ

ダイオウ まあ断りたいですけどここは提案した親父の顔を立たせますか

理事長 すまないな：君の事だ 面倒だと思つてるだろう

ダイオウ しかたないですよ それじゃあ荷物をまとめて向かいます

理事長 ああそうしてほしい

ダイオウ それでは…

理事長 それと学園に着いたら生徒会室に来るようになると君のお父さんが言つていたよ

ダイオウ 親父が？…わかりました…

（ダイオウが理事長室を出していく）

ルドルフ クロ：

ダイオウ ルナか…どうした？

ルドルフ 理事長はなんと？

ダイオウ ああ…男子校に行くように言われただけだまあ行くしかないから行く

ルドルフ では、レースに出ないかぎり会えないのか…

ダイオウ まあそう言うことになるな…

ルドルフ クロが生徒会に入れれば会えるのだが…

ダイオウ 生憎俺は生徒会の仕事は剥かなくてな

ルドルフ ああクロの事だ 生徒会の仕事はやらないとわかつている

ダイオウ …

ルドルフ 悪い意味で言つたわけでは…

ダイオウ フツ…わかってるよ…それじゃああつちの生徒会室で

親父様が待つてゐるから行くわ

ルドルフ ああ気を付けてな…

ダイオウ ああ行つてくる

(ダイオウが荷物を持って中央を出ていき男子校に向かう)

(男子校生徒会室)

トントン

クロス どうぞ…

(ダイオウが部屋に入つてくる)

ダイオウ アニキ…

クロス ダイオウか…待つてた

父 やつと来たか…話がある

ダイオウ 何ですかね？お父様…

父 単刀直入に聞くお前はどうして兄であるクロスよりも二つ多くG1を制覇してゐるのだ？

ダイオウ それはおじいさまが出ろつて言われたからで

父 どうして全部一着なんだ！

ダイオウ ごめん 父さん…父さんが何を言つてゐるのかよくわからないんだけど？

ドン!!

父 お前がどうして兄であるクロスよりもG1を二つ多く制覇してゐるのか聞いているのだ！

ダイオウ だから！それがなんだってんだよ…？

父 クロスはG1に出てもまだ3回しか制覇していないのにお前が無敗でG1を5回も制覇してくれたお陰でクロスはお前のおまけ程度に扱われてゐるんだぞ！

ダイオウ そんなの知らないよ それにそれが何か関係あるの？

父 大有りだ！ 私の後を継ぐのはクロスだ！お前ではないのだ！わかるか！

ダイオウ 別に俺はあんたの座狙つてるわけでもないし

父 それでもだ もしクロスよりもお前を私の座につければ今後言つてくる連中も居るのだ！ なぜそれがわからん！ 弟が！兄よ

りも目立つな！

ダイオウ ……話つてそれだけ？

父 何！

ダイオウ それだけならこれで失礼しますよ

(ダイオウが立ち上がる)

父 良いのか？シンボリルドルフ：いや…ルナ…だつたか？お前がこのまま走り続けるのであればシンボリルドルフを一生レースに立てないようにしてもいいんだぞ…お前ならこれが実現になるからないかはわかるはずだぞ…

ダイオウ ……

(父が立ち上がりダイオウの横に立つ)

父 安心しろ 次のレースの高松宮記念でお前が最下位になれば手は出さんしなにもしない…

ダイオウ ……

(ダイオウが父の正面に立つ)

ダイオウ ルドルフには手を出さないでください

父 ならわかってるよな…

ダイオウ ええよくわかつてますよ

(ダイオウが本気で父を殴る)

父 うつ！

(父が勢いでソファに倒れ混む)

父 ぐつ！

(それにビッククリしクロスが椅子から立ち上がる)

クロス !……

ダイオウ ルドルフに手でも出してみろ！そしたらあんたのその欲望にまみれた顔を今度は原型が止められないように殴り続けてやる！俺だけレースに立てないようにしやがれ！くそじじい！

父 くつ！

(父が起き上がる)

父 お前は父親を…なんだと思つてる！

(父がダイオウの顔を叩く)

ダイオウ くつ！

(ダイオウが父を睨み付ける)

父 なんだ！その目は！

(父がダイオウを殴る)

ダイオウ くつ！

(ダイオウが倒れる)

(父がハンカチで鼻を抑える)

父 くつ！鼻が折れたか…良いだろうルドルフには手を出さない
でおいてやる 貴様はクロス家から名を消す！二度と私の前にその
顔を見せるな！

(父がダイオウの横を通りすぎかる)

(ダイオウが立ち上がる)

(父が後ろからダイオウに向けて)

父 それと…一度とレースに出れると思うなよ…

(父が生徒会室を出ていく)

(ダイオウが左頬を抑える)

ダイオウ いつて…

クロス ダ…ダイオウ…

(クロスが呼び掛けるがダイオウが手を挙げて制す)

ダイオウ 問題ないよ 兄さんは兄さんの道を行けばいい 僕は
ここまでだ…

(ダイオウが生徒会室を出ていく)

クロス 私は…弟に何もしてやれないのか…くそつ！

(ダイオウが廊下を歩いてくる)

(ダイオウが歩きを止める)

ダイオウ あいつとの約束…守れないじゃないか…くそつ…

(ダイオウがケータイを取りだし電話する)

ダイオウ …おじいさま？ダイオウです 少しお願いがありまし

て…今からそつちに行つても良いでしようか？授業ですか…今は…
そんな気分じや…ないん…です…

(ダイオウがケータイを少し力強く握る)

ダイオウ …わかりました…ありがとうございます それでは…

(ダイオウがケータイを切り仕舞う)

ダイオウ フウ

(ダイオウが学園を出ていく)

(5日後)

(トレセン学園 (男子校) ダイオウとトレの部屋)

ダイオウ えつ?トレーナー解消!?

沖 ああ上からの命令でな…お前何かしたのか?

ダイオウ くそ親父に対してならやつたな…

沖 理事長に!何したんだよ…

ダイオウ まあちよつとした…親子喧嘩?

沖 おいおい…俺にまで飛び火するのは勘弁してくれ…

ダイオウ 悪い…

沖 フツなうんてな俺もお前とのトレーナー解消になるつて聞いて猛反対した…けど…首を出されちゃ…俺もなにも言えなくなつた…俺もお前に謝らなくちゃならない…すまない!

ダイオウ 沖は何も悪くないさ…悪いのは全部俺だ…だから沖はそんなこと気にせず新しいウマ娘かウマ男のために指導してやつてくれ

沖 ああ…わかつた…でも…お前がまた走り出したらまたトレーナーを組んでくれよな…

ダイオウ もう…俺は走れないし…レースにも出れない…

沖 えつ?それ!どういう!

ダイオウ 悪いこれから用事なんだ…高松宮記念のレースに知り合いが出るから…見てくる

(ダイオウが部屋を出ていく)

沖 おい!たく…絶対諦めないからな…また戻ってきてやる!あいつの隣に…

(高松宮記念)

解説 さあ始まりました高松宮記念!今回一番人気のダイオウが故障したため代わりにシンボリルドルフが出場となりました 三番

人気ですが今回初のG1出場ですがどこまで頑張れるか…そこが目処でしよう

(観客席にダイオウがルドルフを見つめている)

ダイオウ ……

(レース5日前おじいさまの部屋)

黒須 相談つてなんだね?

ダイオウ 実は…右足を痛めまして…次のレースの高松宮記念には出れなくなりました

黒須 …医者はなんと?

ダイオウ ……三ヶ月は安静に…との事でした

黒須 そうか…殴られたのか?

ダイオウ 大したことではありません…ただの親子喧嘩です

黒須 そうか…まあワシもとやかくは言わんが何か困ったことがあつたら相談しろ…ワシはお主もクロスもこれから産まれるクロスクロスも期待しているのだからな

ダイオウ ありがとうございます…それで折り入つてお願ひが…

黒須 おう…そうだつたな

ダイオウ シンボリルドルフ…ルナを俺の代わりに高松宮記念に出して欲しいんです…

黒須 お主の頼みじや 可能ではあるが…大敗することになるかもしれませんぞ…それでもか?

ダイオウ ルナなら一着で…やり遂げてくれます

黒須 そうか…わかつた…中央には…話を通しておこう

(ダイオウが頭を下げる)

ダイオウ ありがとうございます…おじいさま…

黒須 うむ 早く怪我を直して三人でレースに出て競いあつてほしい

ダイオウ ……頑張ります…

(意識をルドルフに向ける)

ダイオウ あの顔なら問題なさそうだな…

解説 さあ全員ゲートに入りました…

ガシヤン

解説 スタートしました！さあ先頭は…シンボリルドフが先頭に立ちました！他のウマ娘、ウマ男たちがそれを追いかける！

ダイオウ 状況も申し分ないな…ルナ…俺のわがままを聞いてくれ…勝ってくれ…

解説 さあ先頭は現在最終コーナーに入りました シンボリルドフここで一気に差を広げる！他のウマ娘たちが追い付けない！シンボリルドフ 五馬身差を開けて今ゴール！一着はG1初勝利シンボリルドフだ！

(ルドルフがダイオウが観客席に居ることに気づくがダイオウが観客席から去っていく)

ルドルフ クロ…？

(ルドルフがダイオウの向かって出口に出ていく)

ルドルフ クロちゃん！

ダイオウ …

(ダイオウが振り向く)

ルドルフ すまないついビックリして…昔の癖が…

ダイオウ 別に…

ルドルフ …？来ててくれたんだな…後で待合室に来てくれ

ダイオウ …

ルドルフ 怪我は大丈夫なのか？

ダイオウ もういいよ…

ルドルフ えつ？

ダイオウ もう茶番も飽きてきたからな…本当の事言つてやる…

俺はお前を利用してた…シンボリルドフ…

ルドルフ 利用つてどういう…

ダイオウ そのままの意味だ…俺は昔からお前を自分の出世の階段の道具として使ってきたんだ…そう言えば理解できるか？

ルドルフ な…何を言つて…冗談は止めてくれ…それにあの時の約束はどうなんだ？

ダイオウ 約束？

ルドルフ 子供の時…同じレースに立つて本気で走ろうつて約束したじゃないか！

ダイオウ ああ…そんな下らん約束もしたな…

ルドルフ 下らない…

ダイオウ ああ下らないな…このレースで俺はお前を倒して一着になつて出世するはずだつたのに…足を故障しちまつたからな…皮肉なもんだ…まあお前が欲しいのであればくれてやるよ…どうせ他のウマ娘やウマ男の実力者たちに飲まれるだけだからな…ま…せいぜいがん…

ルドルフ もういい…

ダイオウ ……

ルドルフ 君の考え方や気持ちはわかつた…だから私は君に言わせてもらう…私は…負けない…誰にも…そして君にも…絶対に…くつ！

（ルドルフが後ろを向く）

ダイオウ ……そうかい…なら頑張れ…

（ダイオウが後ろを向く）

ダイオウ くつ…ごめん…ルナ…

ルドルフ !

（ダイオウが去っていく）

（ルドルフがダイオウの方を向く）

（学園入り口）

沖 ダイオウ…探したぞ…

ダイオウ ……

沖 つて大丈夫か？

ダイオウ ……大丈夫だ…今は少し…一人になりたい気分なんだ…

悪い…

（ダイオウが学園に入り人気のないところに向かう）

沖 ……

（生徒も誰も来ない場所）

ダイオウ ……ちくしょう…

(ダイオウが膝を地面に着ける)

ダイオウ ちくしょう…この怒りはどこにぶつければいいんだよ

⋮

(ダイオウが壁を殴る)

ダイオウ ちくしょう…ごめん…ルナ…

(学園の渡り廊下をクロスと父が歩いている)

クロス！

(外でダイオウが泣いているように感じ心配する)

クロス⋮

父 クロス！何してる！

クロス！すみません

父 まあ仕方ない…今日はあつちこつちと挨拶に行っていたからな⋮

クロス あの…一つ聞きたいのですが…

父 なんだ？

クロス ⋮あの…

父 早く言え！私はお前のように暇ではないのだ！

クロス では…ダイオウのレース出場永遠禁止はさすがに言い過ぎではないでしょうか？

父 なに！クロス！

クロス は、はい

父 ならお前は自分の立場を取られ世間からはおまけ程度に言われていてもいいのか？

クロス いえ…そう言うわけでは

父 それに！それをものを申すと言うことは私の考えが間違ってると言うのか！

クロス そう言うわけではありません しかし永遠にレースに出れないのは酷と言つてるだけです

父 それでいいのだ

クロス えつ？

父 そうすればあいつはもうレースで力を出さずに引退すること

になる それでもお前は走れるのだ…そこでG1を制覇すればお前
はクロス家の当主だ… 私はお前を私の跡継ぎにしたいのだ だが
ダイオウが居たらそれが叶わん だから永遠にレースに出れないよ
うにしたのだ

(父がクロスの肩に手を置く)

父 私はお前に期待してるのだ…だから頑張つてもらわないと…
困る…

クロス ……期待に添えるように頑張ります

父 うぬ しかし…しばらくは私の指導がまだ必要だな…そんな
ことを言う時点で私の後を継ぐには甘すぎる

クロス ……ご迷惑をお掛けします…

父 今日はもう部屋に戻つて生徒会の仕事しなさい

クロス はい…

(父が去つていく)

(クロスも生徒会室に戻る)

(クロスが椅子に座る)

クロス ……自分は…無力だ…許せ…ダイオウ…不甲斐ない兄
を…許してくれ…

信じる

(ダイオウの顔に朝日が当たる)

ダイオウ ん?う~

(ダイオウが時間を確認する)

ダイオウ …もう三時間目か…ハア…高松宮記念から一週間か…
さて…今日はどうするかな…沖はもう中央に行つちまつたし授業に出たつて先生はくそ親父の怒りに買いたくないから俺は居ないよう
に扱うし…他のウマ男たちがうるさいし…外にでも出るか…どうせ
…誰も文句言わないし…

(ダイオウは私服になり学園の外に出る)

ダイオウ さて…どこに行こうかな?

(目の前にルドルフが居る)

ダイオウ お~い…何やつてんだろ…俺…ルナとはもう絶縁しあつてのに

(ダイオウが別の道に入る)

(ルドルフが後ろを向く)

ウマ娘 どうしたの?ルドルフ?

ルドルフ いや…後ろから懐かしい声で呼ばれたような気がして
な…氣のせいだと思う

ウマ娘 ふくんつて急がないと! 遅刻しちゃう

ルドルフ そうだな! 急ごう

(ルドルフとウマ娘が走り出す)

ダイオウ …海岸にでもいくか…

(ダイオウが海岸に向かつて歩く)
(海岸)

(ダイオウが少しした海岸の石壁の上に座る)

ダイオウ ……

??? 落ち着くね

ダイオウ ええ…こは誰にも邪魔されないですから…つて…

(ダイオウが隣に顔を向ける)

(女性が隣に座っている)

ダイオウ あんた…誰！

??? ああ…そうだな…シビちゃんとでも呼んでくれ

ダイオウ シビちゃん？

シビ ああ…所で君ウマ男だろ？男子校はすでに四間目の筈だがこんなところに居ていいのか？

ダイオウ そう言うあんたも中央だろ？そろそろ一時間目だと思うが？

シビ そこを突かれたか…まあ私は今日の午前中はいやな生徒会の仕事だからね：

ダイオウ それで…少しサボろうと…

シビ 心外だな…サボるんじやなくて休憩と言つてくれ

ダイオウ …わざわざ休憩のために中央から真逆のここまで来ないでしょ…

シビ それより…君大分いろんな事を溜め込んでると見たがどうだ？

ダイオウ !…顔に出てましたか？

シビ いや…出でていなかつたな…アーハツハ

ダイオウ …（この人と話してると気が狂う…）

シビ ただ…

ダイオウ ?

シビ いやなに…授業に出てないと行けないのにここに居るのに何か理由があるんだろうな…ってね

ダイオウ あゝそう言う…

シビ 私でよければ相談に乗るぞ

ダイオウ （話さないと帰らなそうだな…） しようがねえな…

シビ そうそう 謹めて話すがいい！

ダイオウ なんで偉そななんだよ…

シビ 気にするな

ダイオウ ハア…まあ簡単に言えばレースを永遠に禁止になつたんだよ

シビ なぜ？そんなことに？

ダイオウ まあ理事長と親子喧嘩つて所かな？

シビ ……まあ…そこはあまり深く聞かないでおこう それより
他にあるんじやないのかい？

ダイオウ ？

シビ 何か大切な何かを失つた用な気がするが？

ダイオウ …まあ幼馴染みと絶縁したから…てのもあるのかもな

⋮

シビ それに絶縁したつて言つてもそれは君がそう思つてるだけで本人はそう思つてないんじやないのかな？

ダイオウ どうしてそう思うんだ？俺は幼馴染みに酷い事を言つて傷つけたんだ…嫌われて当たり前だ…

シビ そうかもね…でも相手はきつと理解してるんじゃない？

ダイオウ 理解？

シビ そつ…まあその子を信じることだよ…自分もね

ダイオウ 信じる…か…

シビ それじゃあ私はこれで戻るよ…また会えることを祈つてる
よ ダイオウ君

ダイオウ ああ…また会えるかは知らんけど……つてどうしてあ
んたが俺の名前を……もういなし…

(ダイオウが海を見つめる)

ダイオウ ハア……相手を信じろ…か…学園に戻るか…

(ダイオウが学園に戻る)

ダイオウ (そう言えば…あのシビつて人…何処かで見たような気
が…どこだつけ？…思い出せん…)

(トレセン学園)

ルドルフ あっ！シービー会長どこに行つてたんですか？

シビ ルドルフか…なに昔の後輩君に渴を入れていた

ルドルフ はあ？…それより…クロス会長がお待ちです…

シビ ああ直ぐ行く

親友

(トレセン学園(男子校))

先生 今日は転校生を紹介する…

(デカイ体をしたウマ男が教室から入つてくる)

先生 地方から来たジャストアモンロー君だ 仲良くしてあげなさい

アモロー ジャストアモンローです！よろしく！

先生 じゃあジャスト君は一番後ろの空いてる席に

アモロー 了解した！

(アモローが一番後ろの空いてる席に座る)

先生 じゃあ授業を始めるぞ！

(教室のドアが開く)

(ダイオウが入つてくる)

先生 ……授業を始める…

(先生がダイオウを無視するように授業を始める)

アモロー ?

(ダイオウが自分の席に座る)

(ダイオウに聞こえるように話し声が聞こえる)

ウマ男 (ダイオウめ今更来やがつて…なんであいつはレースに出れないのに学園に居られるんだよ)

ウマ男2 (先生にも理事長にも存在されてない扱いらしいしな…)

あんな奴学園から居なくなればいいんだよ…)
ウマ男 (それに休日の日は朝から夜まで外で走ってるらしいじやん あいつだけいいよなー)

ダイオウ ……ちつ！

(ダイオウが立ち上がり教室を出していく)

アモロー ?

(外)

(木の上でダイオウが寝ている)

ダイオウ 僕だつて好きでレース出場禁止になつた訳じゃねえよ

……腹へつたな……また全員授業中に食堂に行くか…

アモロー ここに居たのか！

ダイオウ ん？

(木の下にアモローが居る)

ダイオウ 何のようだ？

アモロー 嫌何…おぬしダイオウ君と言うのであろう ワシは今日地方から転校してきたジャストアモンローと言う！よろしくな…
ダイオウ 挨拶だけか？ならさっさと消えろ…俺と関わるとレースに出れなくなるぞ…

アモロー ?何故だ？拙者は悪いことはしてないぞ？

ダイオウ ともかく俺に関わらなければいいんだよ！以上！さつきと飯にでも食いに行け！

アモロー そうだ！飯でおぬしの所に来た！

ダイオウ ハツ？

アモロー 一緒に昼飯を食わんか？

ダイオウ お前：バカなのか？教室での俺の対応聞いたろ：学園じゃ俺は厄介者なんだよ：俺と飯なんて食えばお前も邪魔者扱いされるぞ…

アモロー 別に構わん！ワシはお主が悪い奴に見えん！

ダイオウ ……(シビと同じ感じだなこれは…ちょっと違うか…こ
ういう奴は一回分からせないとダメだな…俺がどれくらい一人で居た方がいいのか…) 良いだろ…飯一緒に食つてやる
アモロー そうこなくてはな…

(ダイオウが木から降りてくる)

アモロー さあ行こう！

ダイオウ ハア…

(食堂)

アモロー うぬ 席はここでいいかの？

ダイオウ どこでもいいよ…

(二人が座る)

アモロー 改めてジャストアモンローだ よろしく！

(アモローが手を出して握手を迫る)

ダイオウ ダイオウだ…よろしく…

(ダイオウはそれを遮る)

アモロー ダイオウ君は確かG1を5回制しておつたな…

ダイオウ それがなんだ?

アモロー いいなと思つてな…

ダイオウ ハツ?

アモロー ワシはダート向きでな…芝のレースは全然での…

ダイオウ それなら俺はダートは走れん…

アモロー はつは!ワシが芝を走れたらダイオウ君と一戦戦つて
みたかつたな…

ダイオウ 所で…どうして俺のG1制覇知ってるんだ?

アモロー ああ…そこのシンボリグラン君に教えてもらつた

ダイオウ ハツ?

グラソ 横:失礼

(髪が白で髪がベートーベンの髪型の少しボサボサの男性が居る)

(シンボリグランがダイオウの横に座る)

ダイオウ お前…

アモロー なんだ? 知り合いだつたのか?

グラソ 別に…ただクラスは同じ…休憩の寝床の争奪戦の知り合
いではない知り合いだ…

ダイオウ : (それ…普通に知り合いだからな…)

アモロー そうか知り合いか!

グラソ だから!ちげえっての!

ウマ男 (おいおい…ダイオウが居るぞ…)

ウマ男2 (ほんとだ いつもは五時間目に飯食つてるのに何様だ

?あいつ)

ウマ男 (それも転校生のジャストアモンローとシンボリグランと
一緒にだぜ)

ウマ男2 (あいつら度胸あるよな…あいつに関わつたら二度と
レースに出れないのにな)

ウマ男 (全くだ…トレーナーだつてあいつのトレーナーしてたから中央に移されたんだぜ…)

ダイオウ ……

ウマ男2 (ま、いいんじやね?俺らに飛び火を持ち込まないでくれるなら別にな…W W)

ウマ男 (W W)

(アモローが立ち上がる)

ダイオウ ……!おい…

(アモローがダイオウの悪口を行つてた一人の所に行く)

ウマ男 なんだよ…

アモロー ダイオウ君に謝れ…

ウマ男2 ハツ? 何言つてんの?バカじやない?

ダイオウ おい! そんな下らんことで…

アモロー バカで結構!しかしワシの友達の悪口を言つた奴は絶対に謝つてもらう!

ダイオウ !

ウマ男 ハア…くだらねえ

ウマ男2 だな…食う氣失せたな…行こうぜ

(二人が去ろうとする)

(アモローが一人の肩を掴む)

ウマ男 痛つてえーよ!

ウマ男2 離せよ!

アモロー それに君たちは一時間目の授業の時のも謝れ!

ダイオウ いい加減にしろ!

アモロー !

ダイオウ 僕のせいで初日からレース出場禁止になりたいのかよ

アモロー :

ダイオウ その二人を離してやれ…

(アモローが二人を放す)

(ダイオウが食堂から出ていこうとする)

ダイオウ ジヤストアモンローって言つたな…俺に絶対に二度と
関わるな…

(ダイオウが出ていく)

アモロー ダイオウ君!まつ…

ウマ男 けつ!やつぱ意氣地無しだなダイオウは
アモロー なんだと!

(アモローの腕をシンボリグランが掴む)

グラン ほつとけ…バカには何言つてもわからん
ウマ男 あつ?おいグラン バカつて誰の事だ?
グラン 嘶るのがめんどくさいからさつさと行け…
ウマ男2 もう行こうぜ…

ウマ男 ああ…

(二人が足を何かに取られ前に転ぶ)

(一人の顔にカレー(超激辛)の液が浸る)

ウマ男・2 ギヤーーーー

(二人がのたうち回る)

グラン さ…行こうか…

(グランが不敵な笑みを浮かべながらアモローの腕を引っ張つて食堂
から去っていく)

ダイオウ ……友達か…学園(こつち)で初めて言われたな…

グウ~

ダイオウ …腹へつたな…早く五時間目にならないかね…

(先ほどのウマ男たちが教室に入つてくる)

ウマ男 おい!グラン!さつきは良くもやつてくれたな!

(グランが何かに食べている)

グラン なんの話だ?…

ウマ男2 とぼけるな!さつきの紐と激辛カレーを設置したのは

お前だつてのは知つてんだ!

ウマ男 お前のせいで目が大変なことになつたんだぞ!

(二人が真っ赤になつた目を見せつける)

グラム それは良かつたな…

ウマ男2 良くねえ!…て言うか何食つてるんだ?

グラム …さつきの超激辛カレーだが…

(グラムが超激辛カレーを食べる)

ウマ男 それを俺らに近づけるな! 匂いだけでもう目が痛いんだよ!

ウマ男2 くつそ! 覚えてろ!

(二人が目を押さえながら教室から出していく)

(グラムが超激辛カレーを食べ終わる)

グラム ハア～ごちそうさま…さて…腹も溜まつたし…寝るか…

(グラムが寝始める)

グラム ZZ…

(教室の扉がおもいつきり開く)

グラム !

(グラムのトレーナーが入ってくる)

トレ お前の出場レースが決まつたぞ! 天皇賞だ!

グラム あ～そう…お休み…

トレ 寝るな～起きろ～!

グラム ZZ…

トレ これは一時間寝かせないとダメだな…ハア…

先生 ゴホン…授業始めたいのですが?

トレ あつ! 失礼しました

(グラムのトレーナー教室から出していく)

(数日後)

(木の上でダイオウが寝ている)

アモロー やつと見つけた～ダイオウ君!

ダイオウ あ～?

アモロー 学園中探し回つたぞ!

ダイオウ

何のようだ…

アモロー 今日シンボリグラム君が天皇賞に出ることになつてい

る！それで応援に行くのだが大親友のダイオウ君もと…どうだね！

ダイオウ 生憎俺はあいつとは知り合いであつて親友ではない：

アモロー そう恥ずかしがるな！さあ！行こう！

ダイオウ だから！

(アモローが木を揺らす)

アモロー 早くしないと始まってしまうぞ！早く行こうではない
か！

ダイオウ わかつた！わかつたから木を揺らすな！落ちるだろ！

アモロー さあ！共に参ろう！

(アモローがダイオウが襟を掴みレース場に向かう)

ダイオウ :

(天皇賞)

解説 さあ始まりました天皇賞（春）一番人気はこの男シンボリグラン 一番人気の時にしか本気を出さない男が一番人気です 今日は確定ですね…二番人気は…

(観客席)

アモロー うむ！やはり一番後ろが見やすいな！

ダイオウ それは何よりで…

アモロー しかし…グラン君は大丈夫だろ？

ダイオウ あいつは大丈夫だよ…

アモロー ?

ダイオウ あいつは一番人気になると必ず勝つからな…（まあめん
どくさがりだが走りは本物だしな…）

アモロー そうか！しかし…

ダイオウ ?

アモロー あの白い服を着た男も警戒するに越したことはないと

…ワシは思うがの…

ダイオウ 白い服？

(ダイオウがアモローが見てるであろう人物を見る)

(茶色いサングラスを付けて白いスーツを着たウマ男がレースに居
る)

アモロー どう思う？

ダイオウ サングラスをつけたまま走るのか？

アモロー ダイオウ君！ワシが聞きたいのはそうでない！

ダイオウ 生憎俺は人を見る目はない…あいつの走りを見てみな
いことには…

アモロー そうか…

(ダイオウが特別席にクロスが居るのに気づく)

ダイオウ (アニキ…と言うことは…あの白いスーツを着た人物は
…アニキと同じ三年生か…しかしそれならグランが危険視するハズ
…それなのに…)

(グランは白いスーツを着た人物を特にどうも思つてない様子)

ダイオウ (どうも思つてないな…ありや…)さて…どう転ぶかね
⋮

(白いスーツを着たウマ男がサングラスを取り胸ポケットに入れゲー
トに入る)

ガシャン！

解説 スタートしました！先頭はシンボリグランおつと！これは
珍しい！シンボリグラン！いつもは中段につけて最終コーナーで一
気にパートを駆けていますが今日は先頭です！さあもうすぐ先頭は
最終コーナーに入るところです

ダイオウ ⋮

アモロー グラン君がんばれー

解説 さあ最終コーナーに入りました！シンボリグラン未だ先頭

です！後続は追い付けるか！

(白いスーツを着たウマ男が一気に前に向かつて走る)

解説 おつと！ここで先頭のシンボリグランを追いかけるウマ男
が居た！そのウマ男は…シンマツナガ！シンマツナガだ！シンマツ
ナガ！シンボリグランを差して先頭！シンボリグラン必死に巻き返
そうとするが前に出れない！シンマツナガ！一着でゴール！シンボ
リグラン！10番人気のシンマツナガに敗れました！

グラント ハツ・ハツ・ハツ…あなた…何もんだ？俺の情報にあんたみたいな奴は知らないんだが…

マツナガ あなたは一年のシンボリグラント君…だつたかな？

グラント…

マツナガ 三年のシンマツナガだ…最近になつてG1に出れるようになつた

グラント …なるほど…通りで俺の情報に乗つてない訳だ…

マツナガ 君三年生になればいいウマ男になるだろうね

グラント それはどうも…

(マツナガがサングラスを付ける)

マツナガ それじゃあ頑張つてください

(マツナガがライブに向かう)

グラント …クソ！

ダイオウ (あの脚力は…ルナと同等かな…)

アモロー 惜しかつたな…グラント君…

ダイオウ しょうがないさ…レースつて言うのは時の運もあるんだ…

アモロー ……そうだな…走るものは悔いの無いように走るしか
ないからな…

ダイオウ さて…帰るか…

アモロー えつ！グラント君のライブは！

ダイオウ あいつ…ライブは今まで一回も出たことないからな…

今回も出ないんじやないか？

アモロー 今までよく問題にならなかつたな…

ダイオウ …それは言えるかも…（でもグラントは俺が知ってる情報ではOP戦からライブには出てないな…まあ俺には知つたことではないがな）さて…帰るか…

(ダイオウが帰ろうとする)

アモロー えつ！ちよつ！ダイオウ君！

(アモローがそれを追いかける)

(レース場外)

(グラントが帰ろうとしている)

アモロー グラン君!

グラント なんだ…お前らか…

ダイオウ ライブには出ないんだな…

グラント …踊るのが…めんどうだからな

ダイオウ それだけかよ…理由…

グラント それだけだよ…てか急いで帰らないと…

トレ 居た! グラン!

グラント 噂したら…

トレ 今日こそ! ライブに出てもらうぞ!

グラント …体調悪いから…帰る…

(グラントが走り出す)

トレ 体調悪い奴が走れるか! 待てー!

(グラントのトレーナーが追いかける)

ダイオウ (まあ人間とウマ男の力じや差がありすぎからな…ありや逃げられるな…いや…案外捕まえるかもしけんな…)

アモロー グラン君が出ないなら何処かで飯でも食つて帰るとするかの

ダイオウ じゃあ…上手いパンとコーヒー牛乳でも買って帰るか

アモロー うむ! 道案内頼むぞ!

休日

(ジャージーを着たダイオウが居る)

ダイオウ さてと…今日は日光まで行きますかね…

(ダイオウが校門を飛び越え日光に向かつて走り出す)

(アモローがダイオウの部屋に向かつて行く)

アモロー ダイオウ君!

(アモローが扉を開ける)

アモロー なんだ? 居ないのか? ハツハツハツ!

(隣の部屋の扉が開く)

(グランが出てくる)

(グランがダイオウの部屋に入つてくる)

グラン ちつ! おい! アモローうるさいぞ…朝からデカイ声で笑うな…

アモロー お! グラン君か! 実はダイオウ君とパンを食べたいと思つてきたのだが…生憎留守のようでの!

グラン ハア…あいつは夜にならないと帰つてこないよ…

アモロー ?なぜだ?

グラン あいつは今頃…日光に向かう途中だろ…

(ダイオウがカフェに入る)

店長 いらっしゃい…ダイオウ君…

ダイオウ マスターいつもの朝食お願ひ!

店長 はいはい…いつものね

(店長が大量のパンとコーヒー牛乳をダイオウに出す)

ダイオウ いただきます!

(ダイオウが食べ始める)

店長 味はどうだい?

ダイオウ 上手いです

店長 君は俺のパンを食べるとそれしか言わないね…

ダイオウ マスターのパンは美味しいですから

店長 君はおだてるのが上手いね

ダイオウ そんなことないですよ

店長 全く…

ダイオウ ごちそうさまでした

店長 お粗末さん

ダイオウ それじやあ夜にまた来るよ

店長 あゝ生憎今日の夜は用事で休みになるんだよ

ダイオウ 珍しいじやん?

店長 それがな…孫が…帰つてくるんだよ

ダイオウ ヘえ、お孫さんが

店長 ああ だから…

(店長が店の裏に行く)

(店長が帰つてくる)

店長 晩飯用のパンを持つてきたぞ

ダイオウ いつもすみません

店長 そう思うなら早くレースに出てくれると嬉しいな…

ダイオウ あはは…努力しますよ…マスター

店長 それじゃあこれな

(店長がパンの袋詰めをダイオウに渡す)

ダイオウ すみません

店長 後これな…

(店長はついでにとコーヒー牛乳の入った3ドッのボトルも渡す)

ダイオウ いいんですか?こんなに

店長 今日は無礼講だからね

(ダイオウがパンとコーヒー牛乳をリュックに仕舞う)

ダイオウ それじゃ…また来ます

店長 またどうぞ

(ダイオウが店を出していく)

ダイオウ さてと…腹は膨らんだし次は…日光神社に行つてお参

りしようかな…(ちなみに日光神社にはご先祖様の数人が眠つてゐるそ
うである…一年に一回は一族でお参りする…メインは徳川秀忠公ら

しいけど…まあ関係ないけどね…）

（ダイオウが日光に向かつて走る）

（ダイオウが通つた数メートル前の道に砂煙が立つてゐる）
（アモローがグラムを抱えながら走つてゐる）

（グラムが呆れた顔をしている）

グラム どうして俺が日光まで…それもお前に抱えながら走られてるんだ？

アモロー 生憎ワシは日光の場所もわからん！誰かに道案内を頼まないといかんからの！

グラム 俺はもうしばらく寝たがつたんだかな…

アモロー そう言うな！それが照れ隠しだとはわかつておる！ダイオウ君には内緒にしておいておこう！

グラム ちつ！だから！なんでそななるんだよ！とにかく！一度降ろせ！

アモロー あい！わかつた！

（アモローが凄いブレーキをかけて店の前で止まる）

（アモローがグラムを降ろす）

グラム たく！めんどくせえな

（グラムがカフェの中に入る）

アモロー おい！グラム君！日光神社に向かうのだろ！
（アモローがグラムに追いかけて中に入る）

店長 いらっしゃい…

グラム あくすみません…ダイオウはもう出ていつちやいました
かね？

店長 ダイオウ君は今さつき出ていつちましたが？君らは？

アモロー ダイオウ君の友だちです！

グラム 僕は友だちではないですがね…

アモロー 照れるな照れるな！アハハ！

グラム だから！照れてねえ！

店長 なるほど…君がジャストアモンロー君とシンボリグラム君

か…

アモロー そうです！

店長 ダイオウから聞いてるよ…いつも目障りに困わつて来るつて愚痴つてたがね：フツ：先ほど…出て恐らく今は日光神社だ：急がないとお参りした後山の方に行つちまうから用があるなら急いだ方がいいぞ

(店の扉が開かれる)

店長 いらっしゃ…

洋子 おじいちゃん！

店長 お！洋子！来たな

洋子 うん！

アモロー お孫さんですか！

店長 ああ俺の孫の洋子だ…

洋子 洋子です！六歳です！

アモロー 元気があつて良いですね！

洋子 お兄さんたち？誰？

アモロー ああ！ワシがジャストアモンローでこいつがシンボリグラムだ！ワシらはダイオウ君に用があつて追いかけてきたのじゃ！

洋子 えつ！ダイオウさんここ来るの！

店長 なんだ？洋子…ダイオウのファンか？

洋子 うん！ダイオウさんのあの走りが好きなんだ！ゲホッゲ

ホッ！

グラ…ン！

店長 おつと…大丈夫か？洋子…

グラ…ン 喘息ですか？

店長 ええ…産まれたときから肺が弱かつたらしいからな…

グラ…ン そうですか…

店長 なんなら夜まで居てもらつていいぞ

アモロー そんな長時間居たら迷惑では…

店長 何今からダイオウには連絡して夜ここに寄つてもらうことにする…行き違いになるよりはマシだろ？

グラント そうさせてもらいます

アモロー グラン君：

グラント あいつが日光まで行つてるのは知つてるがそれ以降どこ
の山まで行つてゐるのかは知らない…それにマスターが電話してくれ
るそうだし…待つてた方が一番早い

アモロー なら…そうさせてもらおう！

グラント たく：俺の休日の睡眠がパード…

店長 待つてな 今連絡してやる その間…洋子見ててくれ…

洋子 おじいちゃん！私子供じゃないよ！

店長 はいはい…失礼しました…お姫様

洋子 むく

(店長が黒電話で電話をする)

(ダイオウが日光でお参りし、日光から山に行こうとする)

(ダイオウの携帯が鳴る)

ダイオウ ん？あれ？マスターからだ…

(ダイオウが電話に出る)

ダイオウ もしもし…マスターどうしたの？

店長 ああ…ダイオウすまないが夜店によつてくれないか？

ダイオウ 構わないけど…お孫さん来るんじやなかつたつけ？

店長 それがな…うちの孫が君の大ファンでね…会つてくれない
かい？

ダイオウ マスターに頼まれちゃ…断れないな…わかつた…今日

は夕方頃に訪ねると思うからよろしく

店長 わかつた それじゃ…待つてるぞ…

(店長が黒電話の受話器を切る)

店長 夕方頃にここに来るとさ…

グラント そうですか…すみません

店長 構わないさ…あいつも友だちが居て俺も嬉しいんだ…

グラント だから…親友ではないと…

アモロー そうなんです！ダイオウ君！友だちの我々を毎回避け
るんですよ！

グラン 我々つて…だから！俺を入れるなつての！ ハア…頼む
…誰か助けてくれ…

店長 別に君が否定しても構わないさ…ただあいつとの繋がりだけは続けてくれないか…

グラン それぐらいなら構わないですが…

店長 そう言えば…洋子がさつきから黙つてるが？

(洋子が体がガチガチになるほど緊張している)

洋子 ど…どうしよう…ダイオウさんに会える…でも…なんて話しかけよう…

店長 なんだ？…緊張してたのか…やはりまだまだ子供だな…

洋子 子供じゃないよ！緊張もしてないもん！それにおじいちゃんがんたつて緊張したことあるでしょ！

店長 緊張は一度だけしたな…

洋子 ほら！おじいちゃんがんたつて緊張するじゃん！子供じゃないよ

店長 あることで心臓を触るときに緊張したな…

グラン :

洋子 ふうん

店長 まあ…お前は知らなくていいことだけどな

洋子 フン！子供じゃないもん！

店長 わかつたから気を直せ…コーヒー牛乳でも飲め

洋子 ゲホッゲホッ！

(グランが洋子の背中を擦る)

洋子 ありがとう！

グラン いや…

(洋子がコーヒー牛乳を飲む)

店長 ……

(夕方)

アモロー ……くつ

(アモローが体を伸ばす)

アモロー もう18時か…

店長 そろそろ帰つてくるハズだ…あいつはリュックを持つてくる時は大々この時間に戻つてきてリュックを持つてこないときは真夜中まで山の中で走つてゐるぽいからな

グラム 確かにいつも朝は速いからな…

アモロー なんだ？知つてたのか？

グラム 生憎夜は何時に帰つてくるのか知らないが朝は俺も速めに起きてるからな…知つてるんだよ

アモロー よし！今度は早朝に顔を出すとしよう！

グラム やめてくれ…お前の声はデカイんだから頭に響く…俺は出来れば昼まで会いたくないよ

アモロー 照れるな照れるな！

グラム ハア…もういい…諦めた…

(店の扉が開く)

ダイオウ マスターに呼ばれてきたけど…どうしてあんたらがここに居んだよ

アモロー 何！お主と飯を食いたいと思って追いかけたら色々あつてここで待たせてもらつた！

ダイオウ マスター…聞いてないんだが…

店長 お前の事だ…二人が来ることを知つたら通りすぎるだろ

?

ダイオウ まあ…そうだけど…

グラム おい…通りすぎるな…てか…こいつはそんなことで追いかけるなよな…朝ぐらい一人で食え…

洋子 だ…ダイオウさん！

ダイオウ ん？

(洋子がダイオウの前に居りダイオウがしゃがむ)

ダイオウ え…と…君は？

店長 俺の孫の洋子だ…電話で言つたファンってのは事実だぞ…

洋子 よ…洋子です！あ…あの…握手お願ひします！

ダイオウ もちろん！

(二人が握手する)

洋子 わあーありがとう！

ダイオウ こつちこそ…応援してくれてありがとうございますね

洋子 うん！

店長 良かつたな…洋子

洋子 うん！

グラム さて…ダイオウも回収したし…学園に帰りますかね

アモロー そうだな…また飯は別の日にしよう！

ダイオウ いや…なんで今度飯食うことになってるんだよ…いや
だよ…おれ…

アモロー ハツハツ！照れるな照れるな！

ダイオウ こいつと話してると調子が狂う…

グラム 安心しろ…それは俺も同じ気持ちだ…

ダイオウ マスター…悪かつたな…アモローたちが…

店長 気にするな…たまに店が賑やかなのもありがたいからな

ダイオウ よし…帰るぞ…

グラム あ…お前ら外で洋子ちゃんと話してくれ俺はマスターと少しだけ話があるから…

ダイオウ わかつた…洋子ちゃん…ちよつと外でお話しようか

洋子 うん！

アモロー 速くすませてくれよ！グラム君！

(三人が外に出ていく)

店長 さて？話つてのはなんだ？

グラム わかつてると思うが…洋子ちゃんの事についてだ…

店長 ……

グラム 明日から病院に行つて念入り的に検査してもらつた方がいい…

店長 ほう？洋子は確かに喘息持ちだが…それだけで…

グラム 口ではいくらでも言えますが…あえて言います…洋子ちゃんは…重度の結核です…

店長 何を根拠に…

グラム …咳をするとき僅かに音が籠つてました…私は一度同じ

病にかかつた人を見て います だから 確信して 言えます…

店長 もし…違つたら…：

グラン その時は私の事をバカなど散々言つてもらつて結構…なんなら学園に苦情を言つてもらつて結構です それほど私は自信を持つて言っています…

店長 わかつた…君を信じて明日早々に病院で検査してみよう

グラン それなら私が推薦状書きましよう…

店長 …君…何者だ?

グラン 私はシンボリグラン…ただのウマ男ですよ

店長 …

(外) 洋子 ねえ…ダイオウさん…

ダイオウ ん?なんだい?洋子ちゃん?

洋子 洋子ね…ダイオウさんがレースで毎日走つてゐる見たいの…だからね!速くレースに復帰してね

ダイオウ ……うん!約束だ…

洋子 ゆびきりげんまんね

ダイオウ ああ

(二人がゆびきりげんまんする)

ダイ・洋子 ゆびきりげんまん 嘘ついたら針飲ります 指切つた!

洋子 応援してゐるね

ダイオウ ありがとね

(ダイオウが洋子の頭を撫でる)

(店の扉が開く)

グラン さ…行こうか…

店長 洋子…

洋子 おじいちゃん!ダイオウさんに頭撫でられちやつた!

店長 ……そいつは良かつたな…

ダイオウ ……?グランなに話したんだ?

グラン まあ…お前にもいづれ説明する…それより速く帰るぞ…

ダイオウ ああ…

アモロー さあ！帰ろう！

ダイオウ それじゃあマスター…また来ます

店長 ああ…待つてるよ…

洋子 ダイオウさん！またね！

ダイオウ うん 洋子ちゃんも元気でね

(三人が学園に向けて走り出す)

洋子 スゴーイ！やつぱり速いね！

店長 そうだな…さあもう中に戻ろうか…そろそろ寒くなるから
ね 寒さは体にこたえるからな

洋子 はーい

(学園)

(三人が学園に到着する)

ダイオウ たく…お前らのせいで今日はそこまで走れなかつたよ

グラム 僕はこいつに拉致されて無理矢理連れてこられただけだ
…文句ならアモローに言え…

アモロー 二人とも中がいいな！

ダイ・グラ 誰がこんなやつと！

アモロー 息もピッタリ！中が悪いほど中がいいとはまさにピッタリだな！

グラム もういい…お前に何言つても無駄と言うことは学習した
…それじゃ…僕はこれで部屋に戻らせてもらうぞ…

(グラムが部屋に向かう)

ダイオウ 僕も…なんか疲れた…部屋で休ませてもらう…

(ダイオウが部屋に戻る)

アモロー なんだ？二人とも…だらしないな！

ダイ・グラ 誰のせいだ！

(寮二人の部屋の前)

(二人は疲れきった様子で頑垂れている)

グラム …あ、ダイオウ…

ダイオウ なんだ？…

グラン 来週の日曜日悪いが開けといてくれ…

ダイオウ なんでだ?

グラン まあ…とにかく開けといてくれ…そんじゃ…お休み…

(グランが部屋に入つていく)

ダイオウ ああ…お休み…

(ダイオウが部屋に入る)

(ダイオウの部屋にシャワールームが出来ている)

ダイオウ …なんか…数時間のうちにシャワールームが出来てる
んだが…

(シャワールームの扉に付せんが貼つてある)

ダイオウ アニキ…

クロス (ダイオウ…最近お前の悪い噂がたつてるのは知ってる…
お前が昼飯を五時間目に食べることと休日に早朝から真夜中まで
トレーニングしているのも知っている…だから…勝手で悪いがシャ
ワールームをお前の部屋だけに設置させてもらつた…まあ真夜中に
全員共用のシャワールームが使えないからな…ふんだんに使つてくれ…)

ダイオウ ……

(ダイオウがクロスからの付せんを捨てようとするが結局棚の上に置
く)

(ダイオウがジャージを脱ぎシャワーを使う)

前を向く（シンボリグラーン編）

（男子校校門）

ダイオウ グランの奴…遅いな…速くしないとアモローがどつか
らか来るぞ…

（グランがダイオウの所に近づく）

ダイオウ 10分遅刻だぞ…

グラン 悪いな…今日はあいつに邪魔されたくなかったからアモ
ローを睡眠薬で寝かせてきた…

ダイオウ えつ？

（アモローの部屋）

アモロー ガア～～グゴオ～～

ウマ男 グランめ！耳栓してもいびきがうるさくて！寝れない
ぞ！ちくしょう！せつかくの休日が…

ダイオウ まあ邪魔されないならいいけど

グラン 大変だつたぞ…昨日から睡眠薬を調合して朝早くから奴
に飲ませて最初調合した睡眠薬が聞かなくて合計で20回調合して
飲ませたぞ…お陰で寝不足だ…

ダイオウ それはご苦労さん

グラン さ…行くぞ…

（二人が校門を飛び越える）

ダイオウ どこに行くんだよ…

グラン 付いてくればわかる…

（二人がしばらく歩く）

ダイオウ そう言えば…

グラン ？

ダイオウ お前…マツナガ先輩に負けたのに大丈夫なのか？

グラン 生憎俺は悔しくもなんともない…俺は負けても当然…
勝つて当然って思考だからな…

ダイオウ ふ～ん

グラン 悔しがるのはレースの中だけ…外に出たら切り替える…

それが俺の流儀なのでね

ダイオウ なんか…仮面を着けてるみたいだな…

(グランが一瞬だけ足を止めるがすぐに歩き出す)

グラン …着いたぞ…

ダイオウ ここつて…

(中央病院)

ダイオウ 中央病院じやん…俺…悪いところないぞ?

グラン 生憎…悪いのはお前じゃないんだよ…とにかく来い…

(ダイオウがグランを追いかける)

(病院内)

ナス長 グラン坊っちゃん! お久しぶりです

グラン ああ…例の子は?

ナス長 あの子でしたら302号室です

グラン ありがとう…

(二人が302号室に向かう)

(302号室の部屋の前に店長が居る)

ダイオウ あれ? マスター?

店長 おう…ダイオウか…グラン君も来てくれたのか…あれ? ア

モロー君は?

グラン あいつは用事で来れませんでした…

店長 そうか…それは残念だ

ダイオウ おい…グラン…説明しろ…意味がわからん…

グラン そうか…お前は知らないんだつたな…

店長 僕から説明しよう…この前グラン君に洋子を検査するよう
に進められてね…それで検査したら…重度な結核だとわかつたんだ

⋮

ダイオウ 結核!

店長 ああ…

ダイオウ それで…洋子ちゃんの容態は?

グラン 今は絶対に安静だ…外に出てもいけない

ダイオウ 僕を呼んだのは…

グラン まずこの結核は普通の結核と違う…数人にかかる結核の変異種だと思つてくれ…そしてその結核にかかつたら…相手には感染なし…その代わり…生存率は…たつたの3%だ…

ダイオウ ! 3%つて…ほとんど…

グラン しかし…海外ではこの結核を完治させた事例もある…それに賭けるしかないんだ…それには…洋子ちゃんの負けない心が必要なんだ…だから…お前が洋子ちゃんを勇気づけてやつてくれ…

ダイオウ 僕に出来ることならやる…

グラン なら…会つてこい…俺が言えるのはここまでだ…

(ダイオウが302号室に入る)

洋子 あつ！ダイオウさん！

ダイオウ …洋子ちゃん…久し振りつて言つてもまだ一週間しかたつてないけどね…

洋子 洋子嬉しいよ！ダイオウさんが来てくれたんだもん！

ダイオウ 早く良くなつて俺のレース見に来てくれな！

洋子 うん！ダイオウさんの生のレース見てみたい！

ダイオウ それじゃ俺はこれで帰るけど先生の言うことちゃんと聞くんだよ

洋子 えーもう帰つちやうの…

ダイオウ まだ体がなれてないだろうからね…無理はさせられないと

いよ

洋子 むー

ダイオウ また来てあげるから…機嫌直して…

洋子 うん！

ダイオウ それじゃね洋子ちゃん！

洋子 うん！バイハイ！

(ダイオウが部屋を出ていく)

店長 どうだつた？…

ダイオウ 元気でしたよ…一週間前と変わりません…

店長 そうか…

(店長の体が震えている)

ダイオウ マスター……大丈夫です！洋子ちゃんは強い子ですから
！きっと完治しますよ

店長 ああ……ありがとうございます……でもね……ダイオウ君……私は……洋子を失
うのが……怖いんだ……私の息子も……医者なんだが……洋子に構つてあげ
なくてね……洋子が小さい頃から私が面倒を見てきた……娘の用にね……
ダイオウ ……

店長 もし……洋子が居なくなつたら私はどうすれば良いのかと……
毎日考えてしまうのだよ……

ダイオウ ……マスター……

店長 すまない……今のは忘れてくれ……

ダイオウ ……わかりました……所で……グランは？

店長 あく……グラン君なら屋上に行くとか言つてたな……先に帰つて
てくれつてね

ダイオウ 全く……帰りの道知らないのに……しようがない……屋上行
くか……

(店長がダイオウの腕を掴む)

店長 すまない……もし……ダイオウが屋上に行くつもりだつたら止
めてくれと言つていたから……

ダイオウ グランですか？

店長 ああ……なんでも……昔のしこりを切るためと言つていたよ……
ダイオウ ?

店長 洋子を検査するように言つたのはグラン君だと言つたね

ダイオウ ええ……あれ？どうしてわかつたんだ？

店長 今まで隠してたが私も昔……医者をやつててね……

ダイオウ マスターが！

店長 ああ……しかし……私は院長が事故に合い心臓にシャーペンが
刺さつた状態で搬送されてきたとき医者は私だけだつた……ちょうど
……大晦日だつたからね……私は院長の手術をしたが……ミスをした……
や……手遅れだつた……それを居なかつた医者たちが私が医療ミスをし
たとして追放したんだ……そこからは地獄だつたよ……息子にも他の人
たちにも物凄い目で見られたよ……裏切られたって目でね……

ダイオウ :

店長 その時に理事長があのグラント君の父親だつた…

ダイオウ えつ?

店長 噂でしか聞いたことがないがグラント君の母親が同じ結核でなくなつたと聞いた…だから…知識があつたのかもしないし…そういうじゃないのかもしない…わからないがね…

ダイオウ あいつがね…

店長 確か…父親は引退して今はグラント君の兄が後を引き継いでるらしい…それで何か起きたのか知らないが…一族から除名されたらしい…私が聞けたのはここまでだつたがね…

ダイオウ グラン…（あいつも今の俺と似てるな…いや…あいつは前を向いてるから俺とは違うか…俺は…まだ後ろに向いてるからな…）

（屋上）

正幸 突然連絡してきたと思つたら…結核の病人の検査をしろだと…相変わらず…図々しいな…えつ？グラント？

グラント 別に推薦状書いて…あんたん所に届いてるか確認しただけだが…

正幸 まさか母さんと同じ結核の病人連れてくるとは…まだ縛られてるのか？罪滅ぼしか何かか？何もお前が悪い訳じやない…あれは仕方がないことだろ…

グラント 違うな…縛られてなんかない…

正幸 …じやあなんだ？

グラント 母さんの最後の遺言だ…

正幸 遺言だ…デタラメ言つてんじやねえよ！

グラント 母さんが死ぬ前に俺にこう言つたんだ…

（回想）

グラント 母さん…母さん…起きてよ…僕を一人にしないでよ…

グラム グラン…

（グラムがグラントの頭を撫でる）

グラム あなたにお願いがあるの…

グラン な……何? なんでも言つて!

グラ母 私が死んでも…元気でいてね…お兄ちゃんと…仲良くね

グラン うん！……約束する！……

グラ母 そして…最後に…私と同じ結核の病人が居たら…あなたが…あなたが作った薬で直してあげて…

… グラ母 きっと私のような…帰りを待つて居る家族が居ると思うか

ケラン うん！約束する

クラ母がそのまま目を瞑る)

(心臓が止まり機械が音を出す)

ビービー

（回想を戻す）

グラン

正幸 だから…なんだ？あの病気に聞く薬でも出来たのか？お前には無理だ…俺だつて未だに作れてないんだぞ…

(グランが懐から紙袋を出す)

正幸 なんがこれ

正幸
なつ！

グランだが…これは生憎まだ一人にしか試してないから効果が効くのかわからない…その結核事態少ないからな…しかし…今の所一人だけこれを飲んで完治した人が居る…

グラン なんの話だ…

正幸 惚けるな！海外で一人だけある薬を使つたら完治したとその薬を作つたのがお前だつて噂もすでに知つてる！

グラン 知らねえな…そんなこと

(グラントが薬の束を正幸に押し付ける)

グラント それとこの薬はまだ国から許可されてない奴だから…使
うか使わないかあんたに任せる…それじゃ

正幸 なぜだ！なぜお前はそれほど名声に興味がない！それだか
らお父様に追放されたんだぞ！

グラント 僕は…母さんの遺言を守つてただけだ…名声なんて入ら
ない…それじゃあな…名声にしか興味のないお父様によろしく…

(グラントが屋上を去っていく)

正幸 ……

(病院の入り口)

(グラントが出てくる)

ダイオウ おっ！出てきた…

グラント …マスターに先に帰るように伝えておいたはずだが？…

ダイオウ 生憎…僕は通らない道や始めてくる場所は道を覚えら
れん…だから病院から学園の道を覚えてないんだ…

グラント …たく…タクシーで帰れよ…

ダイオウ なんだよ…でも一言言つとく…

グラント …

ダイオウ ありがとうな…グラント…洋子ちゃん心配してくれて

グラント !ベ…別に…洋子ちゃんはまだ子供だ…それだけだ…

ダイオウ 素直じやないんだから…

グラント だ！黙れ！

(グラントが走り出す)

ダイオウ おい！道がわからん僕を置いてくなよ！

(ダイオウがグラントを追いかける)

(屋上で正幸が二人を見ている)

正幸 お前は…前を向いて変わろうとしてるんだな…いや…お前
は…母さんが死んですぐに変わったのかもな…変わつてなかつたの
は…ずっと後ろを見ていた俺なのかもな…俺も前を向かなければな
らない時期なのかもな…

(正幸がグラントが作った薬を見つめる)

薬の革命

(病院理事長室)

グラ父 話はなんだ?

正幸 実は…母さんの命を奪った結核の薬が提供されました…

グラ父 ほう…誰が開発した?

正幸 ……それが…

グラ父 ん?誰だ?言つてみろ?

正幸 グランです

グラ父 外国人か?ぜひとも会つてみたいものだ:

正幸 いえ…薬を開発したのはあなたの息子で私の弟でもあるシンボリグランです

グラ父 なに?…あのグランだと…薬を開発したのが…あの!名

声に興味がないバカ息子だと!

正幸 ……そうです…

グラ父 不味いな…正幸よ…

正幸 はい?…

グラ父 この薬を作つたのは…お前とする…良いな

正幸 何を言つてるんですか?これを作つたのはグランです!

グラ父 良いか正幸…あやつは一族から除名したのだぞ!ワシ等でも作れなかつた薬を作つたのだ!その意味がわかるか?ワシ等よりもあやつが優秀じやと証明することになるのじやぞ!

正幸 ……わかりました…私が作つたことにします…

グラ父 それでいい…

正幸 明日の会見の準備をします…

グラ父 うむ…

(正幸が出ていく)

グラ父 フフフ…

(男子校)

(食堂)

(グラントとダイオウがいる)

(ダイオウが飯を食べている)

ダイオウ …なんでお前がいるんだ?

グラム 今日は勉強する気ないからサボりだ…

ダイオウ …先生が呼びに来そう…

グラム お前が入ればそれはないだろうな…

ダイオウ お前…そのために俺の側に居るんじゃないよな…

グラム そんなわけないだろ…

(テレビで緊急ニュースが流れる)

アナウンサー 臨時ニュースをお伝えします…早朝中央病院の理事長 正幸氏がかかつたら生存率3%結核の完治させる薬を提供されたと発表し 会見を開きました

グラム ……

ダイオウ あれ? 中央病院って昨日いつたよな…

グラム ああ…そうだな…

(会見)

記者 ひとつ聞きたいことが…

正幸 なんでしょう?

記者 その薬を作った人の名前を教えてもらえませんか?

正幸 ……

グラム あくこの薬を作ったのは何を隠そう正幸なのです…

全員 ザワザワ…

グラム データも全て正幸が作つたんです…ですから…正幸は評価…

(正幸がグラ父のマイクを掴む)

グラム 正幸!

正幸 …嘘はいけないな…父さん…

グラム 正幸…

正幸 作った方は私ではありません…私よりも才能がある人物です…

記者 誰なんですか!

正幸 現在トレセン学園男子校の生徒 シンボリグランです そして私の弟でもあります…

全員 弟?えつ?正幸理事長に弟居たの?知つてたか…いや…
グラ父 正幸!お主!散々昨日の夜お主が作つたと…あつ!

全員 どう言うことですか?嘘をついていたと言うことですか!

グラ父 あ…いや…その…

正幸 その通りです…それは父に変わり謝罪します…そして…評

価されるのは私ではなくシンボリグランです

グラ父 正幸!散々ワシがお前を助けてやつたのに!

正幸 それもこれで最後ですよ

グラ父 何!

(会見部屋に警察が入つてくる)

警察 グラ父さん あなたを横領の罪で逮捕します…

(グラ父が警察に連れていかれる)

正幸 さようなら…父さん…会見は本人を呼んでまた…

(正幸が部屋を出していく)

全員 待つてください!まだ話は…

グラン ……バカ兄貴…

(グラント席を立つ)

ダイオウ どこ行くんだ?

グラン 寮に戻る…

セバス シンボリグラン様…

グラン :

ダイオウ ゼバスチャン

セバス ダイオウぼっちゃんお久しぶりです それでシンボリグ

ラン様 クロス会長がお呼びです…生徒会長室にお越しください

グラント ハア…めんどくさい…

セバス お願ひします

グラント あ…わかつたわかつた…それじゃあな

(グラントセバスと出していく)

ダイオウ ああ…

(生徒会長室)

クロス 待つてたよ…シンボリグラン君…

グラン 何のようで?

クロス さつきから君に話がしたいとテレビ局からひつきりなしに連絡があつてね…それと先程病院から連絡が来てね…正幸理事長からだつた…明日…君に会見をしてほしいそうだ…結核に効く薬の…ね…

グラン 生憎…俺は人の前に出れるほど…できた人じやないので…お断りします…

クロス それは…困るな…お兄さんのお願いだよ…

グラン 生憎…俺は名声が大嫌いなのでね…

(生徒会室の扉が開く)

マツナガ 少し良いですかね…

クロス マツナガ…

マツナガ 少し…グラン君と話させてもらいますよ…会長…

クロス ああ…構わない

マツナガ さて…会長からお許しが出たので…シンボリグラン君…君は会見に出たくないと言うが…君は…お兄さんの意思を無下にする氣かい?

グラン それは…

マツナガ まあ出ない…出るはそれは関係ない…でも…その薬を作つた君が自らの意思を伝えなければ相手には伝わらないんじゃないんかな…

グラン !…

マツナガ 作つた本人が言う言葉と…作つてもない人が言う言葉…どつちが信憑性があると思うか?

グラン …

マツナガ まあ…君に聞かなくてもわかつてはるはずだ…そして…君のお兄さんは無理を通して…ライブ中継で君が薬を作つたと言つたんだ…お父様がお兄さんが作つたと言つた後にね…名声が入らないなら…命を助けることだけを考えればいい…違うかい…

グラン　：良いでしょ…明日…会見に出ましょ…

クロス　そうか…病院には後で連絡しておこう

グラン　どうも…

(グランが去ろうとする)

クロス　どこへ？

グラン　病院です…会見には打ち合わせが必要ですから…それじゃ…

(グランが生徒会室を出ていく)

クロス　…：

マツナガ　良かつたですね…気を変えてくれて

クロス　感謝するよ…マツナガ…お陰で助かつたよ

マツナガ　いえいえ…元々私を呼んだのは…このためですよね…

クロス　バレてたか…

マツナガ　ええ　もちろん…私もわかつてて来ましたから

クロス　フツ…今度美味しい紅茶でもおごるよ

マツナガ　それは楽しみです…

(生徒会室の扉が開く)

(グランが入つてくる)

クロス　?どうしたのだ?グラン君…

グラン　ひとつ言うことが忘れてた…明日会見には出てやる…その代わり条件がある…

クロス　条件?

マツナガ　なんでしょう?

グラン　…：

(次の日)

(教室)

(先生が教室に入つてくる)

先生　さあ授業始めるぞ…あれ?ジャスト君は?

ウマ男　食堂でダイオウと一緒にテレビ見てまーす

先生　私は今!何も聞かなかつた…授業を始めるぞ…

(授業を始める)

(食堂)

ダイオウ お前は授業してろよ…

アモロー ワシもグラン君がテレビに出ると聞いて気になつて授業に集中できんのだ！ハツハツハツ！

ダイオウ そですか…

アモロー おっ！始まるぞ！

(病院会見)

記者 グランさんはまだ来ないんですか？

正幸 もうしばらくお待ちください 間もなくです

(廊下で勝負服(水色のワイシャツに白い白衣を着た)グランが会見部屋に向かって歩いてる)

グラン ふう…

(グランがクロスとの条件を少し思い出す)

クロス わかつた…君の条件を飲もう…私も…あいつはここで終わる器ではないのは知つている…

グラン それだけだ…そんじや…

(グランが出ていく)

(意識を部屋の前に戻す)

グラン ハア…大勢の人の前で話すのって苦手なんだよな…

(グランが頭を搔く)

グラン 条件を飲まれちゃ…やるしかないんだけど…

(グランが会見場の扉を開く)

(グランが真ん中の席に座る)

グラン …まず始めにひとつだけ言つておきます…この薬は必ずしも変異株の結核の完治をする薬とは言えません…その理由は…まだ一人にしか使用していないからです…

全員 ザワザワ

(一人の取材班が手をあげる)

グラン どうぞ…

取材 では…一人にしか聞かないのにその結核に効くのですか？もしかしたら偶然かもしれないです

グラン その通りです…だからその変異株の結核にかかっている方に試してもらいたいのです…すみません…皆さんを実験の道具に使うような事を言いましたが…ホンネです…

全員 ザワザワ

グラン まだ一人にしか使っていないためデータが足りなすぎるんです…私も自分で作つた薬です…胸を張つて提供したい…ですが…それには皆さんの方が必要なんです…変異株の結核にかかつた人たちがね…

記者 しかし! それで治らなかつたら…

グラン その時は…私のウマ男としての…生命を終わりにします

⋮

記者 つまり! 治らなかつたら引退するつてことですね

グラン そうです…二度も聞かないでください…

記者 効果はどれぐらいで効くのですか?

グラン 毎日決められた量を飲む…それだけです…その完治した人はそれで3ヶ月で完治しました…治つた後も数ヶ月検査をして完治したのを確認しています

記者 どこの病院で行うつもりですか?

グラン どこつて…この中央病院でやるつもりですが…

正幸 あのな…グラン…

記者 失礼ながら言いますが…今回の横領で中央病院の名を信用する人はほとんど居なくなりました…入院していた方も別の病院に行つたと聞いています…その状態でデータをとるのは大変なのではないでしょ? うか?

グラン …それが何か?

記者 えつ?

グラン 横領をしたからなんです? 確かに横領はやつてはいけないことです…ですが…その信頼を奪つてるのはあなたたち記者やテレビだと思いますが?…ありもしない事をテレビや新聞に乗せて奪つてるとしか思いません…

記者 しかしですね…現に別の病院に移動した人も居ます

グラントでは…理事長に聞いてみますか？昨日の会見から今日まで別の病院に移動した人は居ましたか？

(グラントが正幸にマイクを渡す)

正幸 ……えゝ昨日から今日まで別の病院に移つた患者さんは…居ません

記者 エフ！

グラント そう言うわけです…あなたたちはどうして悪いことをした所を一気に叩くのか分かりかねます…チャンスをあげようとは思わないんですか？有りもしない事を言うあなたたちにこれ以上話すことはありません…患者が移つたと有りもしない事を言つた張本人が謝りに来るまで会見はしません…以上！…

(グラントが出ていく)

全員 待つてください！まだ話は…

(グラントを追いかける形で正幸が出ていく)

(理事長室)

グラント …もしかしたらデータは集まらないかもな…

正幸 いや…俺はお前の言つたことは事実だと思う…だからきっと…お前の言葉に響いた人も居るはずだ

グラント どうだかね？…

(理事長室の電話がなる)

(正幸が電話に出る)

正幸 私だ…ああ…ああ…わかつた…

(正幸が電話を切る)

正幸 お前の考えとは逆になりそうだぞ…

グラント エフ？

正幸 今変異株の結核で入院させてくれなど薬を使わせてくれなど電話が相次いでるそうだ

グラント そつ…

正幸 ここから忙しいぞ…

グラント …そうだな…

正幸 グラン…

グラン ん？

正幸 今の今まで…すまなかつた…

グラン 別に今さら謝られても困る…それに俺は別に気にもして
いない…

正幸 それでも…謝らないと俺の気がすまないんだ…

グラン …まあ昔の事だ…もうお互い水に流すつてことで…

正幸 フツ…ああ…

グラン ?なんだよ…

正幸 いや…何…お前は昔から真っ正面からお礼を言われたり、謝
られたら照れる癖は直つてないんだなってな…

グラン :照れてない…

正幸 照れると一言ですまそそうとする…

グラン あー！学園戻る！何かあつたら連絡しろ！

(グランが理事長室を出ていく)

正幸 :フツ…照れて自分が不利になると逃げ出す…ホント…変
わつてないな…

夏合宿と言ふ名の旅行

(男子校学園食堂)

ダイオウ 夏合宿?

アモロー うぬ！二日後に行うそうだ！

ダイオウ ?

アモロー ん？どうした？まるであり得ないと言う顔は？

ダイオウ だつて…中央は夏合宿をしてるのは知つてるが…男子校は実装されないハズだが…

グラン それが…中央の記録を見てこつちも合宿することになつたんだ：

(グランが超激辛カレーをお盆に乗せてダイオウの隣に座る)

ダイオウ なんでまた…

グラン ん？シンボリルドルフが無敗3冠を制したからだろ？

ダイオウ そうなのか？

グラン 知らなかつたのかよ…

ダイオウ いや…余り興味がないから(ホントは知つてるけど知り合いだつて知られない方がいいと思うし…)

グラン :

アモロー それでだ！

ダイオウ あうなんだつけ？

アモロー 夏合宿で三人でお互いのトレーニングをやるつてのはどうかと思つての

ダイオウ まあ…良いだろうけど…グランはトレーナーが居るし

グラン 安心しろ…トレーナーからは合宿中は自由行動つてなつてる…

アモロー なら決まりだ！夏合宿は三人でトレーニングだ！

ダイオウ おいおい…俺はまだ決めたわけでもないし…それに合宿に行けるかもわからないんだぞ…

アモロー ?何を言つてるのだ？夏合宿は生徒全員行かなくてはならないぞ？

ダイオウ いや…（あのクソ親父が俺が夏合宿に行くのにいい顔しないはず なら何か仕掛けてくるはずだと）とにかく！俺はやるか決めた訳じゃないそれだけだ！

（ダイオウが食堂から出していく）

グラ… …

アモロー うん…どうしたものか…

グラ… アモロー…

アモロー ん？

グラ… あいつとトレーニングする方法教えてやろうか？

アモロー 有るのか！そんなものが！

グラ… ああ…あるぞ…

アモロー 教えてくれ！

グラ… なら耳を貸せ

（アモローが耳をグラ…に近づける）

グラ… ゴニヨゴニヨ ゴニヨゴニヨ

アモロー なるほどな！よし！三人でトレーニングだ！

グラ… まだ俺も一緒にトレーニングするか決めた訳じゃないんだが…

アモロー そう言うなそう言うな！恥ずかしいのもわかるがな！

グラ… 恥ずかしがってねえ！たく！

（生徒会室）

クロス…

（クロスが夏合宿の書類に目を通している）

クロス ん？

（生徒会室の扉が開く）

父 顺調か？クロス

クロス 父さん…

父 どうした？浮かない顔をして

クロス いえ…夏合宿の生徒の書類を確認したのですが…ダイオウの名前が何処にもないのですが…

(ダイオウの名を聞いた瞬間に父が不機嫌な顔をする)

父 当たり前だ…他の生徒はレースに出るが…あいつは一生レスに出れないんだ そんなやつが夏合宿して何の意味がある?

クロス しかしそうするとダイオウ一人が学園に居ることになります…それは問題になります

父 安心しろ…あいつは谷に落としても生きていられる だから何の問題もない…いいな

クロス ……

父 それじゃあな 私は忙しい…夏合宿は頼んだぞ
クロス はい：

(父が生徒会室から出ていく)

クロス ……ハア…俺が言つてるのはそんなことじゃない…クソ
が……セバス…

(セバスが生徒会室に入つてくる)

セバス お呼びでしようか? クロス様
クロス 私がお願ひした二人を呼んできてくれるか? ダイオウには内緒で
セバス かしこまりました

(セバスが出ていく)

クロス ハア…あの父のせいではしばらくは頭を悩まされるな…

(二日後)

(学園男子校入り口)

(入り口にバスが二台来ている)
ダイオウ ……

(クロスがダイオウに近づいてくる)

クロス ほれ…外出許可書と宿泊許可書だ

ダイオウ ああ…それにしてもあのクソ親父には呆れるな…俺の夏合宿は必要つてことでバスの席も用意しなはず…一旦地獄に落ちてくれ…

クロス フツ…

ダイオウ ! (アニキが笑つた…親父の愚痴で…)

クロス つ！ゴホン！それじや行つてくる…4週間後に帰ることになるから頼むな

ダイオウ ああ：

(クロスがバスに乗つてバスが出発する)

ダイオウ で…どうしてお前らが居るんだ？

(グランとアモローとグランのトレーナーがニコニコ(グラン以外)しながら昇降口に居る)

グラン 何故つて俺は海に行きたい気分じやなかつたから…

ダイオウ よし…グランは良しとしようトレーナーは付いてくるのも納得いく…で？なんでアモローが居るんだ？

アモロー ワシはキミと一緒にトレーニングしたいからだ！

ダイオウ ハア…てか…お前ら外出許可書とか出してないだろ…どうするんだ？

グラン あゝ安心しろ…

(二人が許可書を出す)

アモロー すでに許可済みだ！

ダイオウ …どうしてお前らは…そやつて手筈だけは早いんだよ…

トレ で？どこに行くんだ？

ダイオウ アモロー…これ持て

(ダイオウが三人の後ろからデカイリックサックをアモローに背負わせる)

アモロー これは？

ダイオウ 向こうに必要な物…それじや…行こうか

グラン ……(お前は兄に大切にされていて幸福者だな…) フツ

ダイオウ ?なんだよ？俺の顔を見つめながら笑つて…気持ち悪い…

グラン いや…氣にするな…思い出し笑いだ…

ダイオウ ?変なものでも食べたか？

グラン バカ…アモローと一緒にするな！

アモロー 僕は変なものは食べてないが？

ダイ・グラ ……

トレ さ…さあ…行こうか！

(トレの大型車に乗る)

(車が出発する)

(車が人通りの迺道を進んでいく)

(ダンダンみちが悪くなり車が揺れる)

トレ 本当にこつちで合つてるんだよな！

ダイオウ 合つてる…つていってもこんな道だつたかな…

グラム おい…こいつ迷つてるぞ…

ダイオウ 迷つてねえよ…少し心配なだけだ！

グラム それをな…よくあるホラーだと遭難する設定だぞ…

ダイオウ なん！

アモロー まだ…まだ着かんのか…

ダイオウ アモロー…お前顔…真っ青だぞ…大丈夫か？

グラム お前…車酔いか？

アモロー 車で酔つたことなどなかつたのだが…うつ！

グラム まだつかないのか…さすがにアモローが持たないぞ

ダイオウ もう少しのハズだ…

トレ おい！旅館が見えてきたぞ…

ダイオウ あれだ…やつとついた…

(車が旅館に着いた)

ダイオウ アモロー着いたぞ…

グラム ほれ…酔い止めだ…

ダイオウ 遅せえーよ…さつき出せ…

(三人が車から降りる)

トレ それじゃあ俺は車を置いてくる

(車が駐車場に向かう)

ダイオウ あゝそれとお前らに言つておくぞ…

グラム ?

ダイオウ こここの女将さんはかなり癖と言うかなんと言うかまあ性格が難ありだから変なこと言わないでくれよ…

(ボロボロの旅館に着く)

グラン あ…ああ?

アモロー 心得た!

ダイオウ もう元気になつたんかよ…

グラン 僕の薬は即効性だからな…

(ダイオウが旅館の扉を開ける)

ダイオウ こんちわ〜

(旅館の中は真っ暗)

アモロー ダイオウ君! 真っ暗だが…まだ早かつたのではないのかね?

ダイオウ 黙つてろつて…

アモロー う…うむ

ダイオウ 女将さ〜ん…

シ〜ン

ダイオウ しようがないな…

(ダイオウが財布からマニーを落とす)

チャリ〜ン

(暗闇から女性が現れる)

(姿は浴衣を来ておりなぜか左側に人魂?が浮いている)

女将 お金さん…いらっしゃいませ〜

ダイオウ お金じゃないでしょ…

女将 ?あれ? ダイオウ君?

ダイオウ お久しぶりで女将さん

女将 いらっしゃい…所で足…退かしてくれないかしら〜…マ

ニーが拾えないんだけど…

(女将さんがしゃがんでダイオウの足を退かそうとしている)

ダイオウ …それ…俺のなんで…

女将 フフフツ…冗談よ…さあ四人かしら…部屋に案内するわ

…

ダイオウ どうも…

女将 それにしてもルナちゃんところでイタズラしてたダイオ

ウ君がこんなに大きくなるなんてね〜…

ダイオウ よしてくください 特にこいつらの前で

アモロー おお！是非とも聞きたい！

女将 止めといた方がいいわよ〜ダイオウ君は怒ると誰にも止められないから〜…

アモロー ？

ダイオウ と〜とにかく知らぬが仮つて意味だ〜（少し違う気がするが…まあいか…）

女将 こちらです〜

（女将が襖を開ける）

グラム 案外キレイなんだな…

女将 中は拘ってるんです〜

グラム 外装は？

女将 あれも〜面白味を追求したらあ〜なりました〜

グラム …（わからない…どうして面白味を追求したらあ〜なるんだ？）

ダイオウ それじゃあ後でトレーナーが来るから来たらここに… トレ 呼んだか？

（トレが扉の向こうから顔を出す）

女将 あら〜案外早く御通ししたわね〜

（小さな女の子がトレの後ろから出てくる）

女将 わらしちゃん

ダイオウ なんだ…わらし…まだこんな旅館に居座つてたのか？（わらしが黙つたままうなずく）

女将 あなたもよく頷いちやダメでしょ〜

（女将がダイオウのほっぺを引っ張る）

ダイオウ しょこまで言つてにやい…

女将 あなたもよく頷いちやダメでしょ〜

（女将がわらしのほっぺを引っ張る）

女将 フフフツ…

(女将がわらしの頭を撫でる)

(わらしが早走りで去る)

女将 それでは、皆様、ゆつくりく

(女将が襖を閉じる)

トレ さて、早速ダイオウのトレーニングを教えてもらおうか？

ダイオウ ……ほれ：

(ダイオウが紙をトレに渡す)

トレ どれどれ……えつ？これがトレーニング？

ダイオウ そうだけど？

(グラントがダイオウが書いた紙をトレから奪う)

グラント 何々？

(まず始めにこの旅館には釣り堀がありそこで二時間 釣り場所まで
駆け足 二時間行いその後旅館の薪割りを一時間場所 駆け足 そ
の後 わらしと鬼ごっこ 夜に旅館の近くの浜辺で走る 以上)

グラント ……

トレ ダイオウ君……これのどこがトレーニングなんだ？夜だけ
じゃないか……走るの…

ダイオウ 失礼な……ちゃんと二人の事を考えて書いたんだぞ…

グラント そうだな……特にアモローにはうつてつけかもしけんな…

アモロー ……ワシか？

グラント お前……ダートレースの練習でいつもゲートで出遅れて6
着か5着だつたろ…

アモロー ああ……そうだが…

グラント お前は余計な事を考えすぎるから出遅れるんだ…

アモロー そうだな！ワシは確かに始まる前に盆栽の事を考えて
しまうな！ワハハ！

グラント どうして盆栽なんだ？

アモロー ん？グラント君は盆栽は知らないのか？あれは素晴らしい
物だぞ！今の自分の心を表してくれるからな！

グラント 盆栽ぐらい知ってる！ そうじゃなくて……レースに支

障をきたしてたら意味がないって言っている！

アモロー そこを突かれると痛いな！

グラム たく：

トレ それがアモローにとつていい結果になるのか？

グラム 当たり前だ…釣りつてものは余計な事を考えれば魚は寄つてこないと昔何かの記事で見たことがある それを心に雑念を消せば釣りは成功するはずだ

ダイオウ そう言うこと…ちなみにグラムのは

グラム 薪割り…だろ？

ダイオウ やっぱバレたか

グラム 当たり前だ…夜の走りはほぼ全員用つて所だろ 薪割りで腕の筋肉を付けると言つた所か？

ダイオウ それもあるが…腕の振りを体に合わせるためつてのが基本かな？

グラム ！

ダイオウ 最近走り方を変えただろ それで前に走りを見たときに腕の降りが甘い感じがした

グラム 良くわかつたな…

ダイオウ まあレースに出れない以上…いろいろ見ると出てくるんだよ…

グラム まあこれでしばらくはいいだろう

ダイオウ ちなみに魚は釣つて女将に渡さないと今日の晩飯ないからな 頑張つて釣つてくれ

グラ・トレ …マジかよ…

(釣り堀)

アモロー うーん…釣れんな…

ダイオウ 憶てることなけれ…憶て精神を崩せば体力は無くなるし集中力も切れる…それより落ち着いて釣りをしろ…じやないとお前…今日の晩飯ご飯だけだぞ…

アモロー それはいかん！速く釣らなくては！

ダイオウ はい…精神を崩した…

アモロー うーワシにはこう言うのは苦手だ…

ダイオウ お前の性格上仕方ないかもな…でも このままじゃ〇
P 戰なんて着外で終わるぞ…

アモロー それもいかん！

(アモローが釣りに集中する)

ダイオウ (全く…それにしても…)

(グラントが魚を次々に釣っている)

ダイオウ お前…漁師にでもなつたらどうだ？

グラント ふざけるな…なんで俺だけ針を入れただけで釣れんだよ

⋮

ダイオウ 魚に気に入られてるんじゃないか！

アモロー いいな！ワシにもその魚運をくれ！

グラント 魚運つてなんだよ…たく…

ダイオウ たく…グラントのせいでのアモローの精神トレーニング出

来ないな…これじや…

グラント 好きでやつてる訳じやねえよ…

ダイオウ 当たり前だ…そんな魚運あつたら漁師になつた方がいい儲けだ…グラントだけ着いてこーい

アモロー そうなのかな？

グラント 知らん

修行？

(薪割り場)

ダイオウ さて…薪割りの仕方はわかるよな？

グラン まあ何となくならな…

ダイオウ ジヤあやつてみろ

(グランが斧を持ち薪を半分に割るが右側の片方だけ二つに割れてしまう)

ダイオウ なるほどな…

グラン 何がだ？

ダイオウ お前は右側に力が寄りかかっているってことだ：薪割りを何度もして二つに割れるようになれば走りもスムーズになるんじやねえか？

グラン まあこんなので改善されれば苦労はしないが…まあ…無駄とわかってるやつて見るか：

グラン いや…

ダイオウ あつそ…まあ頑張れ…海辺に居るから

グラン ああ…つておい！

ダイオウ ん？どうした？

グラン どうした…じゃない！どうしてお前が海辺に行くんだ！お前が考えたトレーニングだろ！

ダイオウ い…いや…ま！頑張れ！

(ダイオウが走り去る)

グラン あっ！おい！たく！

(グランが薪割りを始める)

(海辺)

ダイオウ はあ…

女将 ダイオウ君…

ダイオウ ん？あ…女将さんか…

女将 フフツ…少しだけ話をしない？

ダイオウ まあ全然構わないけど…

(二人が木の下の日陰に座る)

女将 それで? 二人はいい感じに進んでるの?

ダイオウ グランは問題ないと思うけど…アモローが問題だなう

女将 あの人…妹さんと何か合つたんじやないかしら?

ダイオウ アモロー…妹居るの?

女将 あら? 友達なのに知らなかつたの?

ダイオウ 友達…ね…本当に友達なのかね

女将 ここにいる時点で友達と言つてもいいと思うわよ…

ダイオウ …

女将 ちなみに…暗黒寺さんは元気にしてる?

ダイオウ 最近…ルナのトレーナーになつたつて聞いたけど…

女将 それが…トレーナー辞めたつて聞いたのよね…

ダイオウ えつ? そうなの?

女将 うん…

ダイオウ 僕の耳にはそんな話聞かなかつたな…

女将 そう…

ダイオウ まあ今度アニキにでも聞いてみるよ…

女将 そうしてくれるとかしら…ハア…こつちには顔も出さないんだもん…

ダイオウ それは…まあ…クロおじさんも考えがあるんじや…

女将 いや…ないわね…あるとしたら…私に迷惑をかけないようにするためつてのが理由じゃないかしら…

ダイオウ …(ちなみに女将さんと今話した暗黒寺は僕のいっこ俺の親父(クソ)の弟でおじさん…でもつて女将さんとは元夫婦…トレーナーをしていたがある事故で足に障害を持つことになつてから離婚してしまつたんだけどね…えつ? さつきと雰囲気が違う気がする?…大丈夫だ…外に出て太陽の光に当たるところなる…)

女将 さてと…そろそろ夕食の準備をしてくるわね

ダイオウ ええ…お願ひします

(女将が去つていく)

ダイオウ

ハア：

移転

ダイオウ（合宿から三ヶ月か：グランは何気に薪割りの成果が出来たのか フォームを変えたらタイムが大分早くなつたって言つていた。）

神 あゝダイオウ君？
ダイオウ（アモローはまあ対して…かな？まあゲートの出は最初よりかは良くなつたらしいけど未だに1着を取つてないらしくトレーナーが付かないらしい でも恐らくアモローの足ならすぐに付くだろう）

神 あゝダイオウ君？
ダイオウ ん？ はいはい？

（ダイオウの前に老人が突つ立つてている）

ダイオウ えつーと…あんた？

神 ワシじやよ ワシ

ダイオウ …あゝ

神 そうそうワシじやよ

ダイオウ ワシワシ詐欺はお帰りください

神 誰が！詐欺じや！

ダイオウ 冗談ですよ 神様：

神 ゴホン 元気そうじやの

ダイオウ まあレースには出れてないですけどね

神 それじや！

ダイオウ はい？

神 ワシがどうして君を転生させたか覚えておるか？

ダイオウ えつーと確か：俺を偉業化させて給料をアップさせるのが理由じや：

神 ゴホン まあそつちの方は現世で君が言つた通りにダイオウと言ふ馬を誕生させたからガツボリじや

ダイオウ それなら…

神 しかし！お主が偉業をなし得てないからワシの給料が上がり

んのじや！

ダイオウ そうは言われてもな…

神 まあお主の父親があんな人物だとは予想外じゃたがの…これは奥の手として残したかつたのじやがの…

ダイオウ 奥の手？

神 お主は今から二年後の今日まで飛んでもらう
ダイオウ ハア！

神 二年後の今日 お主はトレセン学園に行くことになる そして やつとレースに出れるようになるのじやよ

ダイオウ いやいや！ 急にそんなこと言われても！ それに洋子ちゃんの事もあるし！

神 残念じやが…あの子はどんなに頑張っても病気は治らんよ…
ダイオウ 何を言つて…

神 すでに決まつてることなんじや…あの子は 変異の結核により亡くなりそしてお主に関係がとても近いウマ娘と生まれ変わるそれはすでに女神も了承すみじや

ダイオウ 洋子ちゃんが…助からない…

神 まあそう残念がるな…言つたじやろ すぐにお主に関係が近いウマ娘に転生すると…

ダイオウ …どんなウマ娘なんだ？

神 すまんがそれはたとえ転生者のお主でも教えられん それが神々の世界のルールじやからな

ダイオウ そうか…まあ代々は予想がつくけどね…俺の子供の馬の名を持つウマ娘ってことだよな…

神 …まあ…お主の考えに任せると

ダイオウ そうだな…

神 さて、お主を飛ばすとするかの…それじゃあ頑張ってくれ シの給料のために！

ダイオウ それは今でも変わらないんだな…

神 アヤサヤボエボエ！

ダイオウ (スゲーダセー…何？アヤサヤボエボエつて…)

神 ダサいって言うな！ 後言い忘れていたが二年後の時代は
ちょうどアニメの一期と時系列的に同じじやからな

ダイオウ と言う事は…

神 まあルドルフが生徒会長じやな

ダイオウ マジかよ…

(ダイオウは時渡りをする)

ダイオウ …時を渡つたのか？

神 うむ 後は頑張れ！ワシは見守つておるからの

ダイオウ ああ…

(神が去つていく)

セバス ダイオウぼっちゃん

ダイオウ セバス！ビックリした…

セバス 失礼しました。なかなか見つからなかつたものですから
ダイオウ 僕が？

セバス はい クロス様がお呼びです

ダイオウ アニキが？

(生徒会室)

セバス 遅くなりました

クロス 構わない ダイオウは？

ダイオウ 僕に何か用か？アニキ？

クロス ああ…お前には今からトレセン学園に言つてもらいたい
ダイオウ !

クロス どうした？そんな顔して？

ダイオウ いや…何でもない（神様が言つた通りだつたな）まあど
うせ暇だし言つてもいいけど…

クロス 安心しろ お前の暇はすぐに終わるさ

ダイオウ ?

クロス 今からセバスに車で送つてもらつてくれ

ダイオウ あ…ああ

セバス では、向かいましようダイオウぼっちゃん
(二人が生徒会室を出ていく)

クロス フウ：後は頼んだぞ……やよいちゃん…いや…やよい理事長：

トレセン学園（中央）編

憂鬱

（車の中）

ダイオウ ハア…憂鬱だ…

セバス 何かおつしやいましたか？ダイオウぼっちゃん？
ダイオウ …いや…一人言だ…（マジでどうしよう…勢いで出て来
ちゃつたけどルナと会うのがためらわれる…あんな絶好レベルの酷
いこと言つたんだし…まあ本音ではないんだが…）

（車が止まる）

セバス 着きました

ダイオウ ああ…

（ダイオウが車から降りる）

セバス 荷物はまた後日お届けに参りますので

ダイオウ ああ…ありがとうセバス

セバス では…私はこれで

（セバスは車に乗り学園（男子校）に帰っていく）

ダイオウ …ハア…どうにかルナと廊下でバッタリ会いませんよ

うに…

（ダイオウが理事長室に向かう）

ダイオウ …（ルナにはなんとか会わずにここまで来れたな…まあ
途中途中ウマ娘たちの目がなんとかならなかつたものかと考えてし
まうが…逆に嫌な予感がするのは俺だけか？）考えていてもしうが
ないか…

（ダイオウが理事長室のドアをノックする）

たづな どうぞ

（ダイオウが理事長室に入つていく）

ダイオウ 失礼しますよ

たづな ダイオウさん お久しぶりです

ダイオウ たづなさんもお代わりなく…

たづな 今ものすごく失礼なこと思つてませんでしたか？

ダイオウ マ・マサカヽ世の中ソンナワケナナイジャナイデスカ（相
変わらず勘が鋭いことで…）

やよい ゴホン！久しぶり！ダイオウさん！

ダイオウ ……えつゝと？この子のは？

やよい 驚愕！私を忘れてしまつたのか！

ダイオウ ……あつ！もしかしてやよいちゃん？

やよい その通り！

ダイオウ ザいぶん見ない内に大きくなつてたから分からなかつ
たよで？理事長は？

たづな 理事長は目の前にいらつしやいますよ

ダイオウ はい？

たづな 今の理事長はやよい理事長です

ダイオウ はい！

やよい その通り！ウマ娘たちのために私は頑張る所存！

ダイオウ とか言つてマイマネーを使ってたづなさんを困らせて
るんじゃないの？

たづな そうなんです！理事長つたら…

（割愛中（～3～）／＼

（午後18時）

ダイオウ えつゝとたづなさん俺の部屋つてどうなるんですかね
？

たづな あつ！…ごめんなさい…つい…着いてきてください
(もぬけの殻となつた理事長を置いていく)

(たづなに案内され空き教室に案内される)

たづな ダイオウさんすみません 本当は寮の方で寝かせてあげ
たいのですが…ウマ娘とだけの寮にウマ男を一人を寝かせるわけに
は行かないので

ダイオウ それはそうでしょうね…

たづな この空き教室を使つてください それと一様学園の職員
扉の鍵を渡しておきますね

ダイオウ ありがとうございます

たづな 昔と対して場所は変わりません

ダイオウ わかりました

たづな それでは私は理事長とまだ話がありますので

ダイオウ ほどほどにしてあげてくださいね

たづな 心の済みにどどめておきます

(たづなが笑顔でそう答える)

(たづなが去っていく)

ダイオウ ハア…早いけど寝るか…なんか疲れた…

模擬レース

(トレセン学園(中央))

ピンポンパンポーン

たづな ダイオウさん 至急理事長室に来てください

ダイオウ …俺…

(理事長室)

ダイオウ 失礼しますよ

(ダイオウが理事長室に入る)

(理事室にはたづな、やよい、ルドルフが居る)

ダイオウ ……(今一番会いたくない人物が…)

ルドルフ 久しぶりだね ダイオウ

ダイオウ …あ…ああ久しぶりだな…

たづな ダイオウさん実はお願ひがあります

ダイオウ お願ひ?

やよい うむ ルドルフ会長と模擬レースをして欲しいのだ

ダイオウ ル(ナ)…ルドルフと? 模擬レース?

たづな はい クロス会長には既に許可をいただいております

ダイオウ ずいぶん用意が良いことで…ハア…わかりました 走

ね ればいいんですよね? ただし俺が勝つても文句言わないでください

ルドルフ 無論 私は君に負けるつもりはないがね

ダイオウ で? 模擬レースはいつ?

やよい 今日の放課後に行つて欲しい

ダイオウ ずいぶん急ですね

やよい 無論! 無理を言つてるのは承知している しかし! こ

れは君のためでもあるんだ

ダイオウ :まあ模擬レースで走るぐらいならいいでしょう…(親

父もさすがに模擬レースまで文句は言つてこないだろう…)

やよい 感謝! では今から模擬レースの準備をしてくれ

ダイオウ はいはい…

(ダイオウとルドルフが理事長室を出る)

ルドルフ ダイオウ 二年間レースに出てないがブランクは大丈夫なのかな?

ダイオウ : (確かに二年間走つてない事になつてゐるんだつたな:まあ俺からすれば何ヵ月かの休暇明けだと思えばなんともないけどルナの場合はかなり疲労が有るような気がするな:)俺は二年間のブランクなどなんの大差もない:しかしルドルフ:俺の心配をする暇があるなら自分の体調を心配してから言うんだな:生徒会の仕事のブランクのせいで負けるなんてことしないでくれよ:それじゃあまた後でな…

(ダイオウが去つていく)

ルドルフ ……

(放課後)

(練習レース場にたくさんのウマ娘たちが居る)

ティオー さあカイチヨーが出場する模擬レースが始まります解説はトウカイティオーと!

エアグルーヴ エアグルーヴだ:

ダイオウ :まさか ルナが模擬レースで走るつてだけでこんなに集まるとはな:愛されてるんだな:それともただの野次馬か?

(ルドルフがレース場に現れる)

ルドルフ すまない 待たせたかな?

ダイオウ いや…特に…

ルドルフ 早速走ろうじゃないか?

ダイオウ ああ…さつさと終わらせよう…

(二人がゲートに入る)

エア 二人がゲートに入りました

ティオー カイチヨー! 頑張れ!

ダイオウ なんかな?

(ゲートが開く)

(ルドルフが走り出すがダイオウは走らない)

ルドルフ !

エア ダイオウ！走らない！…どうした？

ダイオウ …やよいちゃんになんか一本食わされた気がするが…
まあいいか…ルナには少し分からせた方がいいからな…そんな疲労
した体で俺には勝てないって所を…

(ダイオウの回りに黒いオーラが現れる)

(ダイオウがゲートから出て走り出す)

エア ダイオウが走り出した！

ティオ 今さら…でもさすがにそこからカイチヨーに追い付くの
は…

エア …

ティオ ウソ…

(ダイオウがものすごい速さでルドルフの後ろに付く)
ルドルフ !

ダイオウ (気を抜いてたな…)

(ダイオウがルドルフの前に出てさらにスピードを出す)

ルドルフ くつ！

(ルドルフもダイオウの後ろに付いていこうとするが逆に離されてい
く)

エア す…既に5馬身の差が空いている…

ティオ 会長頑張れ！

(ダイオウがゴール板を通りすぎる)

(その後10馬身開けられてルドルフが通りすぎる)

ダイオウ ……ハア…

ルドルフ ハア…ハア…

(ダイオウがルドルフの前に立つ)

ダイオウ 言つたろ？俺のブランクの心配をする暇があつたら自
分の体調の心配をしろってな…今のお前じや他のウマ娘たちには勝
てても俺には永遠に勝てないそれだけだ…

(ダイオウがルドルフの横を通りすぎる)

ルドルフ くつ！

(学園入り口)

ダイオウ ハア…少し言いすぎたかな？

エア おい！ダイオウ

ダイオウ ん？（えーとあつ！エアグルーヴかな？なんか怒つてる
ような気が…）

エア 会長に何を言つたんだ？

ダイオウ （やつぱ言いすぎた…でも謝罪するわけには行かないか
…）

エア おい！聞いているのか？

ダイオウ 聞いているさ…さつきの回答だが…俺のブランクの心
配をする暇があつたら自分の体調の心配をしろつて言つただけさ

エア しかし言い方があるだろ！先ほど会長は思い詰めたような
顔をしていたぞ！

ダイオウ しかし今回は模擬レースだつたから良かつたがこれが
本当のレースで負けることがあればルドルフは走れなくなる…それ
は一緒に生徒会の仕事をしていた君ならわかると思うが？

エア それは…

ダイオウ 僕みたいなウマ娘がいつか現れる可能性は無くはない
その時ルドルフがレースで負けるそれがルドルフにとつて苦痛だ
と分かるはずだか？

エア…：

ダイオウ まあ頑張つて支えてやつてくれ

（ダイオウが学園の中に入る）

エア 待て？どうして会長の心配を…

ダイオウ （少し動搖するような事を言つちやつたな…でも俺の気
持ちは決まつたな…）

（自分の部屋（教室））

ダイオウ あれ？たづなさん？

たづな ダイオウさん…模擬レース拝見しました

ダイオウ そうですか…たづなさんお願ひがあるんですが…

たづな なんでしょう？

ダイオウ 僕レースに出たいんですけど…

たづな　！はい！理事長にお伝えしておきます

ダイオウ　お願ひします

たづな　トレーナーは誰にするのか決まつてますか？

ダイオウ　もちろん：沖です

たづな　わかりました：沖トレーナーには話をしておきます

トレーニング

沖 よし…これでいいな…

(沖がある程度の書類を持つて部屋を出る)

沖 あいつと会うのも二年前か…

(沖がグランドに出る)

沖 居た居た…

(グランドの端にダイオウが居る)

ダイオウ ひさしぶり…沖

沖 ひさしぶりってほどじゃないだろ…全く…なんの連絡もしないんだから…

ダイオウ 愚痴は今度聞いてやるよ…で? メニューは考えてきてくれたか?

沖 当たり前だ…俺は二年間どれだけお前のレースをもう一度見たいと

ダイオウ はいはい…体が鈍ってるからトレーニング終わつたら聞いてやる

沖 …会わない内に俺に対するスルースキルが上がったんじゃないか?

ダイオウ お前が居なくなつてからいろいろあつたからな…

(ダイオウが少し悲しい顔をする)

沖 まあ…なんだ…また同じことが起きても俺はお前を一人にしないから安心しろ…

ダイオウ ……沖…

(ダイオウが沖を見つめる)

沖 なんだよ…

(沖が照れる)

ダイオウ まるで好きな子に告白するような言い方止めてくれ…

お前の口からそういう類いが出ると寒気がする…

沖 なんでだよ!

ダイオウ もしかして沖…俺のこと…

沖 んなわけあるか！トレーニングさせねえぞ！

ダイオウ ハハハ！冗談だよ…

沖 お前の口は冗談に聞こえないんだよ…ほれ！

（沖がダイオウに今日のトレーニングメニューを渡す）

ダイオウ どれどれ？

（ダイオウがトレーニングメニューを見る）

ダイオウ 昔と対して変わつてなくて安心した

沖 そりや…二年間のお前を知らないからな…その二年の空白を知るために昔のメニューで品定めさせてもらうよ…

ダイオウ お前らしいな…

沖 そう言うお前は少し性格が固くなつたんじやないのか？

ダイオウ …そうかもしれないな…

沖 で？いつまでそこで隠れてるつもりだ？ティオー

（木の隅からトウカイティオーが出てくる）

ティオー うげ…なんでわかつたの？

沖 お前が考えそなことぐらいわかるんだよ…こいつ…こう見

えてルドルフと同い年だぞ

ダイオウ （沖の奴…余計なことを…）

ティオー えつ！嘘！

ダイオウ 本當だが？少なくとも…（いや…変な事は言わないでおこうか…）

ティオー それより！トレーナー！なんでトレーナー解消なのが説明してよ！

沖 そのままの意味だが？ダイオウのトレーナーになつたそれが理由だ：

ティオー 理由になつてないよ！

ダイオウ 沖：俺も話が飲み込めるのだが…

沖 お前もかよ…簡単に言えば元々俺はティオーとトレーナー契約してトレーニングしてレースに出ることになつてた…アーユウアツケイ？

ダイオウ いや…なんで最後英語なんだよ…それも発音違うし…

いや…まあ何となく察した…つまりティオーとトレーナー契約していざつて所で俺からお声がかかつたつて訳か…

沖 そう言うこと

ダイオウ しかしティオーは納得していないと…

沖 そんなところだろ?

ダイオウ いや…そんなところだろって…

沖 俺は何て言われようとお前とトレーナー契約したんだ…何て言われようが構わない

ダイオウ なら…ティオーも俺と同じくトレーナー契約して俺とトレーニングすればいいんじゃない?

ティオー いいね!それ!

沖 おいおい…俺はそこまで…いやティオーがいいなら構ないが…

ティオー いいの!トレーナー!でも…

ダイオウ 俺なら別に構ないけど…

ティオー そうじやなくて…会長を負かした人とつてのも…

ダイオウ (そう言えばティオーはルドルフに偉く依存してたな…まあ俺の世界じゃ親子だしな…それにこの前の模擬レースでルドルフを慕つてた人たちは俺に凄い邪険にしてるぽいしな…)

沖 ティオー!ダイオウを邪険にするなら俺はお前とトレーナー契約はしないぞ!

ダイオウ !

ティオー えっ!違うよ!確かに他の皆はそうだろうけど…

沖 ならない…俺はダイオウが模擬レースでルドルフを負かしたのは当たり前だと思つてる あれがこいつの本気だ…それを見抜けない奴らを俺は契約なんてしたくない

ティオー そう言う意味で言つたんじやないよ!

ダイオウ まあまあ二人とも落ち着いて

沖 :

ダイオウ それに他から何て言われようがどうも思わないし俺は

⋮

沖 しかしだな…

ダイオウ はい！この話はお仕舞い！トレーニング始め！

(ダイオウはランニングを始め出す)

沖 あつ！おい！まだ話は途中…ハア…：

ティオー えつ…ボクはどうすればいいの？

沖 …ハア…ティオーも今日はダイオウと同じトレーニングをしてくれ：

ティオー と言うことはボクとトレーナー契約してくれるんだね！

沖 ああ…ダイオウがしていいと言つからな…

ティオー わかつた！

(ティオーがダイオウを追いかけるようにランニングしだす)

沖 二年間の空白を知ってる人に話を聞きに行くか…(ダイオウ：話そうとしたがらないし)

本部は無理難題をおつしやる…つて普通ならなるのか？

ダイオウ あゝあ…眠い…（今日は日曜日なのでトレーニングも学園も休みである…だからって）

（ティオーが椅子に座つて二コニコしている）

ダイオウ なんできつと居るんだよ…

ティオー そりや親交を深めるためだよ

ダイオウ …（そう言えばティオーってあつちではルナの子供だったよな…こつちでは違うけど…ルナの事聞いてみるか…） なあティオー

ティオー 何？

ダイオウ 最近のル（ナ）…ルドルフってどう思う？

ティオー 最近のカイチヨー？うんいつも通りカツコいいかな？ どうしてそんなこと聞くの？

ダイオウ いや…俺が一年間会うことがなかつたからな 前に会つた時とは印象が違つたからだよ

ティオー ふくん

ダイオウ 何だよ…

ティオー 別にく

ダイオウ ？

ティオー それにして空き教室丸々を部屋に出来たのはスゴいよね

ダイオウ まあ俺が寮の方に住むわけにはいかないからな

ティオー 今気づいたけどコンロとシャワー室もあるの…

ダイオウ あゝアニキがまた俺の居ない間に業者に頼んで設置していくつた

ティオー お兄ちゃん居るの？

ダイオウ ああ…トレセン学園男子校 現生徒会長 クロス それが俺のアニキだ…

ティオー ……えつ！

ダイオウ

ん？どうした？ビックリした顔して

ティオー そりやビックリするよ！クロス会長つてあのクロス家の長男だよね！ボクの学校にも行事で良く来てるし カイチヨーと良く話してるもん！

ダイオウ そんなにビックリすることか？ あつ！わかつた

焼いてるんだなるほどなるほど…：

ティオー ち…違うやい！

ダイオウ （噛んでるぞ…）

ティオー む…ムムム…

ダイオウ （あつ！聞こえないように言つたんだけど聞こえたつぽいな…）

（扉がノックされ扉が開く）

ルドルフ 失礼するよ

ダイオウ ん？…

ティオー あつ！カイチヨー！

ルドルフ ああ ティオー來ていたのか？

ダイオウ 僕の部屋になんのご用で？カイチヨーさん

ルドルフ そのカイチヨーはティオーだけにしてほしい…：

ティオー えー

ダイオウ それで？

ルドルフ ああ 少し良いかい？

ダイオウ ああ どうぞ

ルドルフ ここではな…：

（ルドルフがティオーを見る）

ダイオウ ティオー悪いが席を外してくれ…

ティオー ええ、ボクもカイチヨーと居たい！

ルドルフ すまないな…ティオー 大事な話なんだ

ティオー うう今度ハチミー一緒に飲んでよね

ルドルフ ああ 約束しよう

ティオー うん！ それじゃあダイオウまた明日ね！

(ティオーが部屋を出ていく)

ダイオウ その元気を俺に分けてくれ…

ルドルフ フツ…そうかもな…

ダイオウ で？用件つて？

ルドルフ ああ 実は君の復帰戦なのだ…

ダイオウ ああ…本部が愚痴愚痴言い出したか？

ルドルフ ご名答 本部の方たちがなぜかダイオウがレースに復帰するのを拒んでな…

ダイオウ ハア…（まあそりやそうか…本部の幹部たちも俺のクソ親父の顔を立てておかないと消されると思つてるからな…そう考えるとクロス家つてかなりすごい名家だよな）

ルドルフ もちろん私も理事長も何度も抗議している そしたら

ダイオウ そしたら？

ルドルフ 条件を出されてね…その条件がね…

ダイオウ （無理難題か？）

ルドルフ 現在、ダイオウの先勝は5戦5勝 全てG1勝利だ

ダイオウ 簡単に言つてくれねえか？

ルドルフ ああすまない G1で後5勝連勝して無敗10冠を目指してほしい そうすれば本部の方たちも納得すると言つている

ちなみにレースは本部が決めるレースを走つてもらうことになつた

ダイオウ まさか…次のレースいきなりG1つてことは

ルドルフ そのままかだ…ダイオウなら問題ないと本部は判断したらしい：

ダイオウ ハア…（まあ問題ないけどめんどくさそうな感じ出しど

(二)

ルドルフ もちろんかなりのブランクがある それを考えて理事長は今度もう一度抗議してくれるつもりでは居る

ダイオウ ああ大丈夫だ…逆にブランクなんて気にしない走り見せて本部たちの顔を真っ青にしてやる（G1残り5勝にしたことを後悔させてやる）フツフツフツ

ルドルフ そ…そ…か…ダイオウならそう言うだろうと思つてい

た それなら本部には問題ないとそう伝えておこう

ダイオウ ルドルフ：

ルドルフ ?

ダイオウ 生徒会の仕事も大事だが自分の体も大事にしろよ 絶好調な時に俺が勝てなかつたらしようがないとなつてしまふからな

ルドルフ ああ！そのつもりだ 次は負けないさ

ダイオウ ならいいさ…ちなみに次のレースは決まつてゐるのか？

（ダイオウがコーヒーを口に含む）

ルドルフ ああ 菊花賞だ

（ダイオウがコーヒーを拭く）

ダイオウ ゲホツ！ゲホツ！菊花賞！

ルドルフ だ：大丈夫か？

ダイオウ 菊花賞つて俺レース出ていいの？（皐月賞とダービーと菊花賞は馬だと3歳しか出れないけどつて思つたけど…この世界が半分はアプリの設定がつてそれはないな…神様がアニメの一期と時系列が同じつて言つてたし…）

ルドルフ 本来はダメなんだがダイオウは皐月賞 ダービーを勝つてその後怪我で菊花賞に出れなかつた そこを本部の会長が菊花賞を選んで特別特例となつた

ダイオウ 本部の会長つてことは…

ルドルフ ああ 後は想像に任せよ それじやあ私はこれで失礼するよ 頑張つてくれ

（ルドルフが出ていく）

ダイオウ ハア：本部は無理難題をおつしやるつてなるんだろうけどね普通のウマ娘やウマ男なら…（てかおじいちゃん：何やつてるの…そんなに孫に三冠取らせたいのか…まあわからなくもないか…俺も馬主になつて三冠馬所有したくて血統とか気にしながら馬買つたからな…あの馬…三冠馬取れたかな？取れてたら俺の弔いになるんだけどつてそんなことはどうでもいいんだよ…また今度神様にでも聞いてみよ）

（夜）

(バ一)

(東条ハナと沖トレーナーがお酒を飲んでいる)

沖 やつぱり おハナさんもルドルフとかから聞いてないか…

ハナ ええ それとおハナさんはやめてと言つてるじゃないですか…

か：師匠

沖 ならこつちも師匠と呼ばないでくれ…おハナさんがまだ新人の時に俺が数カ月指導したからって師匠はないだろう…

(二人の後ろから一人近づいてくる)

沖 相変わらず後ろから音もなく近づくのが得意だな…まだウマ娘の足を触ってるのか？ 沖野…

沖野 あちやー相変わらず察しが良くて

沖 いつかお前ウマ娘に殺されるぞ…まあお前は死なんだろうけど…しぶといから

沖野 酷い言われようだな…

沖 ちなみに沖野はダイオウの噂知らないか？

沖野 ダイオウ？ ああ沖先輩のトレーナーになつたウマ男でしたつけ？

沖 ああ 調べたが二年間あいつは一度もレースに出てないんだ

それが気になつてな…どうしてそうなつたのか…それが知りたいんだ…

沖野 本人に聞けばつてそれはヤボか…

沖 本人事態話してくれないからな…

ハナ それでルドルフなら何か知つてているかもと

沖 ああ

ハナ 残念だけど聞いてないわね

沖 そうか…さてと…

(沖がウイスキーを飲み干す)

沖 悪い 先に帰る

ハナ あら？ 早いわね

沖 いろいろ調べたいからな…

沖野 ずいぶんそのウマ男にご熱心だな…

沖 僕はあいつの本気を一度だけ間近で見た それ以来あいつの走りが忘れられなくてな…あいつにはレースで本気の走りをしてほしい レーナーとして当然だろ?

(沖がバーを出ていく)

沖 ハア…

(沖の後ろから)

??? 沖トレーナーですね?

沖 うわっ! ビックリした!

駒方 失礼を…私 ウマ娘本部

会長秘書兼執事をしております

駒方 (こまがた)と申します

沖 ど…どうも…で? 本部の方が俺のような一般トレーナーに何のようで?

駒方 はい 黒須会長が及びです車をご用意していますので今からお逢い頂けないでしょうか?

沖 マジ…

再発

(トレセン学園男子校)

アモロー 暇だ！グラン君！暇で暇でしょがない！

グラン 僕は…眠くて暇じやねえ：

アモロー あ～ダイオウ君が居てくれればな～

グラン そんなにダイオウに会いたいなら中央に行けばいいだろ？と言つても成績もない、トレーナーも居ない今のお前には無理だけどな…

アモロー では！グラン君！君が中央に

グラン 断る！なんでダイオウの様子を見るためだけに俺がわざわざ中央に行かないと行けないんだ

アモロー ぐぬぬぬ：

グラン まあ諦める事だな…

アモロー まだ何かあるはずだ…

グラン ハア…諦めが悪いだから…

(グランのスマホがなる)

グラン ん？病院からか…

(グランが電話に出る)

グラン 私だ…

アモロー グラン君も一緒に考えてくれ 私一人では何も！

グラン わかつた！わかつた！考えてやるから少し黙つてくれ

！

アモロー う…うむ…

グラン すまん…もう一回頼む…！

(グランが電話を内容を聞き立ち上がる)

グラン ありえん…量を間違えたんじゃないのか？

アモロー ど…どうしたのだ？グラン君…

グラン 吐血してるだと！なぜ早く言わない！直ぐに行く

(グランが急いで去ろうとする)

アモロー グラン君！何があつたのだ？

グラン アモロー！直ぐにダイオウ呼んでこい！洋子ちゃんの結核が再発した！

アモロー わ…わかつた！

グラン ちつ！何で再発したんだ…治りかけていたのに…

(トレセン学園)

ダイオウ ハア…

(ティオーが椅子に座つてココアを飲んでいる)

ダイオウ 何でいつもここに来るんだよ…

ティオー だつてマックイーンは天皇賞秋のトレーニングでなかなか会えないしカイチヨーは生徒会の仕事で忙しいみたいだし…

ダイオウ だからつてここに来なくても良いだろ…

ティオー なんだいなんだい！みんなボクの事のけ者にして！

ダイオウ はいはい…ここに居ていいから騒ぐな…

(部屋の扉が開く)

アモロー ダイオウ君！

ダイオウ はあ…なんで俺の部屋に来るやつはワガママと騒がしい奴等なんだ…

アモロー 恥ずかしがつてる場合ではない…

ティオー えつ？あれ恥ずかしがつてるの？

ダイオウ だから違うつて…てか…アモローなんでここにいるの？

アモロー 洋子ちゃんの結核が再発したらしい！グラン君が直ぐに病院にと…

ダイオウ !わかつた…すぐ向かう ティオー悪いが沖に今日のトレーニング俺は休むつて伝えておいてくれ

ティオー わ…わかつた…

(中央病院)

(緊急管理室)

(防護服を来たグランが部屋から出てくる)

グラン ずいぶん速かつたな アモローの事だからどつかで寄り道していると思つてたが…

アモロー ハツハツハツ！ グラン君 ワシは頼まれた仕事はまず
一直線に優先して終わらせるぞ！

グラン たく…皮肉で言つてやつたのに…こいつのハートは鉄で
出來てるのか？…

ダイオウ で？ 洋子ちゃんの容態は？

グラン ああ…今は落ち着いてるがさつきまで吐血していたから
な…氣は抜けないな…会つてくるか？

ダイオウ ああそうさせてくれ

(グランが扉を開く)

アモロー ならワシも！

グラン お前は廊下で大人しくしてろ…

アモロー 何故だ？ ワシも洋子ちゃんと会いたいのだが…

グラン お前が着れる防護服があれば考えてやる

アモロー あゝそうか！ ワシは体がでかいからな！ ハツハツハツ

！

グラン はあ…後日特製で作つてやる…だから大人しくしてろ…

(グランが扉を閉める)

(ダイオウとグランが防護服を着て部屋に入る)

店長 ダイオウ君…

ダイオウ マスター…洋子ちゃんの様子は？

店長 …今薬で眠つたところだ…

ダイオウ そうですか…

店長 それで？ どうするつもりだい？

ダイオウ ? どうするとは？

店長 君のレースの事だよ！ 洋子が！

ダイオウ ちよつ！ ちよつと待つてください！ グラン！ どういう

意味だよ

グラン ここじやあ何だから こつちに…

(グランがもうひとつドアを開く)

(店長とダイオウが入りその後にグランが入る)

ダイオウ 説明してくれよ…グラン…

グラント　お前らが来る前に洋子ちゃんがな…

(少し前に戻る)

グラント　洋子ちゃん…大丈夫かい?

洋子　グラントさん…ゲホツ！ゲホツ！

(洋子の口から血出る)

グラント　喋らないで

洋子　私ね…昨日…夢を見たの…

グラント　?

洋子　夢の中でね　三人の女神様に会つたの…それで女神様たち
が私に謝つてきたの…それでね　どうして謝つてくるのか分からな
かつたから聞いたの…そしたらね：私は菊花賞の後に亡くなるん
だつて…だからお願ひ…ダイオウさんのレースを一度でいいの…ダ
イオウさんのレースが見たいの！ゲホツ！ゲホツ！

(洋子が吐血する)

グラント　わかつた…検討してみるよ…だから今はゆっくり休もう
か…

洋子　うん…

(グラントが耳を動かす)

グラント　二人が来たか…ちょっと行つてきます

(回想が終わる)

ダイオウ　…なるほど…それで…グラントの意見は？

グラント　こう見えて俺は一様医者の卵だ…現状の洋子ちゃんを外
に出すのは自殺行為だ…洋子ちゃんの体も肺も弱っている…風邪を
引けば…洋子ちゃんは…だからこそ言う…俺は反対だ…

ダイオウ　マスターは？…

店長　私は…

ダイオウ　確かに洋子ちゃんの意思を俺は尊重したい…だけど…
グラントの話を聞く限り…俺は軽率な事は言えない…だから…一人娘
の用に育ててきたマスターに…委ねます…

店長　…

(店長が考えている)

店長 しばらく…しばらく…考えさせてくれ…

ダイオウ もちろんです…今日はもう遅いですし…ここで解散しましよう…

グララン …ああ…

店長 ……

(三人が部屋から出てきて洋子の部屋を出していく)

(ダイオウが部屋を出る前に洋子に顔だけ振り向く)

ダイオウ 洋子ちゃん…頑張れ…

(ダイオウが出ていく)

(夜の道)

ダイオウ ……ハア…慣れないな…人の死つてものは…(と言つても俺も一度死んでるんだけど…後はマスターの判断に任せらしかな
いか…)

ダイオウの転生前の競走馬たち

(中央病院)

(緊急管理室 洋子)

店長 :

(店長が眠っている洋子を見つめる)

店長 私は……どうすればいいんだ…

(トレセン学園)

神 ほっほほ…

ダイオウ ……

神 ん? どうした? 機嫌が悪いの?

ダイオウ 誰のせいだと思ってるんだよ…

(ダイオウが時計を見る)

(午前3時)

ダイオウ こんな時間に叩き起こされたら誰だつて不機嫌だ…

神 おおう…それはすまなかつたの…

ダイオウ で? こんな時間に何のようで?

神 ん? お主の馬人生を知らせに来た

ダイオウ はい?俺の馬人生?

神 ウマ男ではなく『馬』の人生じや

ダイオウ ああ…そつちね

神 お主に頼まれた通りの事実にして引退レースで1着を取りそ

の後子供を残して安楽死じや これで良かつたのじやろ

ダイオウ ああ 僕が選んだことだからな…

神 まあ お主のお陰であつちで単勝でかけまくつたら資産何十億となつたわい

ダイオウ そうかい…それで一つ聞きたい

神 ん? なんじや?

ダイオウ 洋子ちゃんの転生についてだ

神 ……何度も言つたじやろ…どの人物に転生するかは天界のルールで教えられないと…

ダイオウ そうじやない…教えてもらわなくともいいし
神 ?

ダイオウ 前、俺に繫がりがあるウマ娘に転生するつて言つたけど
それつて俺の血を引く競走馬つて事か?

神 …うむ…（どうじやたかの…確か…）詳しくは言えないが…
確かにお主とは繫がりはあるがダイオウの子ではない…それだけは
言える

ダイオウ そう…（違うのか…なら分からん…）

神 それと恐らく気になつてるから教えるが…

ダイオウ ん?何を?

神 お主がまだ転生する前に馬主をしてたときの競走馬たちの事
じや

ダイオウ あ…（すっかり忘れてた…）

神 忘れてもつたな…?

ダイオウ ま…まさか…？どうなつたの?

神 そのためにはお主が寝た方が早い さ…ベッドに横になれ
ダイオウ はいはい 夢で見せてくれるつてことですね

神 そうとも言うの

（ダイオウがベッドに横になる）

ダイオウ 部屋出るとき鍵よろしく

神 お主…神使い荒くないか?

ダイオウ そう言うあなたは人使い荒いよね? 転生させて…

レースに勝ち続け…

神 わかった!閉めておこう

（神様が杖を叩く）

ダイオウ （眠くなつてきた…）

神 ちなみにお主がこれから見るのは引退レースの所じや そ
れじやあの いい夢をの…

（ダイオウが夢を見る）

（ダイオウが阪神競馬場の観客席に居る）

ダイオウ へえ…良く良く考えたらこつちとあつちの阪神競馬

場つて作り同じ何だな……って同じなのは当たり前か？

さあ！阪神競馬場今日のメインレース 「チャレンジC G3」が始まります このレースはJRAに大きな貢献を残してくれた……オーナーの追悼レースです 一番人気は3番……そしてこのレースで引退する無きオーナー所有馬 カブガンズ 16番人気です 中野さんどうでしよう？

中野 やはりG1も出では居ますけど勝てませんし重賞レースも2勝しか勝つてませんからね 他の競走馬たちの能力を見る少し劣ってる感じがしますからね、しかし母方の父があのオグリキヤップですからね、さいこの最後にやつてくれるんじやないかなつと思いたいですね

さあファンファーレです

♪♪♪

各馬ゲートに収まつて最後に16番のカブガンズがゲートに入つて：今スタートしました！横一線 見事なスタートです 先頭は9番が先頭で逃げました 一馬身空いて6番 3番 1番そして五番手にカブガンズがついております

（最終コーナー）

さあ最終コーナーです 先頭はなんと！カブガンズ！もう負けられないオーナーの兄……信也（しんや）懸命にムチが入る！一発！二発！後200！後続を完全に引き離したカブガンズ！これが無きオーナーに贈る銃声と共に鳴り響く最初で最後の小さき猛獸の砲口！カブガンズ！ 最低人気でありながら奇跡を起こしました まさにオグリキヤップを彷彿とさせるレースでした 中野さん いかがでしたか？

中野 そうですね 見事なラストランでしたね きっと天国に旅立つた……オーナーもこのラストランを見届けていることでしょう：（T—T）

すばらしいレースでした 2着には3番 3着には10番と言う高配当でした……信也騎手が涙を流しながら観客たちの前に来て、頭を下げていきました

レポ カブガinzで見事 チヤレンジCを勝利した……信也騎手です 今回はJRAに大きな貢献をしてくれた……オーナーの追悼レースでしたが騎乗する前のカブガinzの状態はどうでしたか？

信也 そうですね 非常に大人しくて最初は心配したんですがカブガinz自身弟・亡きオーナーの追悼でありラストランであると分かつていたのか 最終コーナーで最初で最後の本気を出してくれたなと思います

レポ あんなすごい走りを見せられての引退ですが…どう思いますか？

信也 正直…カブガinzは数少ないオグリキヤツプ産駒なのでG1に勝ててませんし種牡馬には出来ないのでこれで引退は残念ですしあの走りをもうちょっと早く見せてくれればG1奪取もあり得たんじゃないかなって思います それにオーナーと話してこのレースで勝利しようが負けようが引退は確実にすると話したので後は余生を充実よく過ごしてくれればいいなと思います

レポ ありがとうございます 次のレースも頑張つてください
…信也騎手でした

信也 ありがとうございました

神様 それじゃあ次に行くとするか…

(場面が変わる)
(中山競馬場)

さあ！いよいよ始まります！今年最後の総決算！「有馬記念」一番人気は今日が引退レース！そしてここまで無敗！リツキーボールド！二番人気は3歳王者！10番！三番人気は凱旋門賞で破れてしまつた7番！ 豪華な競走馬たちが揃っていますが…中野さんどうでしょう？

中野 そうですね…ここはリツキーボールドで行きたいんですけど…ただ逆転も考えて10番も起きたいってのが本音ですね…
やはりリツキーボールドを本命にして対抗逆転もありで10番ですか…三番手は？

中野 そうですね やはり7番と5番でしようかね…

理由をお聞きしても？

中野 やはりリツキーボールドがこの中では圧倒的に強いでしょ
うね無敗三冠馬ですし…G1勝利18勝…もう…これを本命にしな
いでいつするんだって話ですね…まあ10番の逆転もありと考えて
いるのはですね…今年の競争成績を見るとですね…

4.	1	阪神	大阪杯	G1	2000	逃切る
6.	1	東京	安田記念	G1	1600	先押進
6.	4	阪神	宝塚記念	G1	2200	先押進
10.	1	中山	スプリンターズS	G1	1200	先押進
10.	5	東京	天皇賞（秋）	G1	2000	逃切る
11.	3	京都	マイルCS	G1	1600	逃切る
11.	4	東京	ジャパンC	G1	2400	逃切る（同着）
12.	4	中山	有馬記念			

中野 普通の馬ですと足が壊れるローテーションを組んでまして
ね…さすがにリツキーボールドでも疲れは出ると思いますから…と
なると10番が勝つってことも考えられるんですね…まあパドック
を見た感じ疲れもないように見えますし…10番とリツキーボー
ルドどっちが強いのかでしようかね

わかりました…さあファンファーレです



16番がゲートに収まつて…グランプリ有馬記念…今…スタート
しました！ 先頭に出たのは2番！ それに続くように3番…8番6
番と続きます 2番人気である10番は五番手リツキーボールドは
中断につけています

（最終コーナー）

さあ！ 先頭は10番！ 5番と7番も並んできているが大外から一
気にリツキーボールド！ 三頭をかわした！ リツキーボールド！ リツ
キーボールド！ この馬に敗北と言う文字はない！
リツキーボールド…
リツキーボールド…

リツキーボールド!!!

皇帝ルドルフ！アーモンドアイの壁さえもすでに通り越しG1
19勝目！

ダイオウ ヘえゝあの馬がねえゝこんな強くなるなんて…

神 ちなみにネタバレだが君が菊花賞に勝つた後に会う事になるぞ

ダイオウ 本当にネタバレだな…

リツキー（馬）ヒヒーン！

神 今があやつにはお主は見えどる カブガinzにはやれんかつたが今までの褒美として頭を撫でてたらどうだ？ 死ぬ前はやつてたのであろう

ダイオウ！ なんでそれを…

神 あの馬の願いじや…ちなみにこのレースから既に何十年とたつておる 種馬として人生を歩んだが…寿命がきてワシの所に来てのその時に願つたのが引退した有馬記念で亡きオーナーに最後の撫でをしてほしいそれが願いじや…やつて来てくれんかの？

ダイオウ …わかつた

（ダイオウがリツキーボールドに近づき頭を撫でる）

ダイオウ リツキー…よく頑張つたな…

リツキー（馬）ブルル

神 おつと…ワシはこれで失礼させてもらう そろそろ朝じゃお主ももうじき目覚めるぞ

（神様が消える）

??? クロ…起きてくれないか？

ダイオウ うん…

（ダイオウが寝ている）

ルドルフ そろそろ起きてくれないかい？ダイオウ…

（目を開けるとそこにはルドルフが居る）

ダイオウ …ルナ？…ルドルフ！…どうしてここに！

ルドルフ …いやすまない…君に用事があつてな…この時間な

ら起きてると思つて来て見たら鍵が開いていたから入つてしまつた

⋮

ダイオウ （あの神野郎 鍵閉めとけつて言つたのに！ルナに寝顔
見られたじやねえか！次会つたら蹴つ飛ばす！）

ルドルフ タイミングが悪かつたな…すまない…

ダイオウ いやいい…鍵をし忘れた俺のせいだ……所でルドルフ

⋮

ルドルフ …な…何かな？

ダイオウ なんか体調悪いのか？顔が赤い気がするが…

ルドルフ なつ…何でもない！気にしないでくれ！

ダイオウ （その顔は…からかいのある…ゲホンゲホン…）そ…そ
うか…で？用事つて？

ルドルフ あ…あ…菊花賞に無事出走することになつたと報告
に来た。

ダイオウ そうか…それは何より

ルドルフ まあ君ならそういう反応だと思つていたよ…確かに伝
えた…これで失礼するよ…

ダイオウ ああ…ちなみにルドルフ…

ルドルフ なんだい？

ダイオウ それつてわざわざ朝イチで報告することかい？たづな
さんとかにお願いしてつてことも出来たのに…わざわざ俺が寝てる
間に忍び込んで報告することに意味があるかと…

ルドルフ 待て！忍び込んではいないぞ！だいたい君が…

ダイオウ きやくカイチヨーに教われる！

ルドルフ 待て！襲うのは私ではなく君だろ！ん！

ダイオウ えつ？

ルドルフ いや……その……なんだ…菊花賞の件確かに伝えた！

これで失礼する！

（ルドルフが部屋を出ていく）

ダイオウ …少しからかいすぎたかな…（笑）

（生徒会室）

ルドルフ …全く…君のからかいは心臓に悪い

(ルドルフが頭を触る)

ルドルフ 全く…寝てしまうと頭を撫でる癖は治つていらないな…
それに…あの時…フフツ…

(ダイオウがくしゃみをする)

ダイオウ 誰か噂してる…まさかな…

(ティオーが部屋に入つてくる)

ティオー ねえねえダイオウ！

ダイオウ なんだ？ティオーかどうした？

ティオー トレーナーからさつき聞いたんだけど菊花賞に出るん

だつて？

ダイオウ ああゝそうなつたな…

ティオー なんか…軽すぎない？

ダイオウ そうか？いつもこんなもんだと？

ティオー あれ？なんで知ってるの？僕がトレーナーから朝イチ
で聞いたのに？

ダイオウ ん？あゝルドルフが朝イチで報告しに来たから知つて
る…

ティオー …えつ？カイチヨーが？何で？

ダイオウ さあ？俺が寝てる間に忍び込んでまで教えたかつたん
だろう？…

ティオー えつ！忍び込んだ！ちよつとそれどう言うこと！

ダイオウ さて眠気覚ましにブラックコーヒーでも飲みに行きま
すかね：

ティオー ちよつと！無視しないでよ！

ダイオウ……はあ……早く教室戻らないと授業始まるぞ？

ティオー そんなことより！カイチヨーが夜中に男の部屋に行く
なんて許せないもん！

ダイオウ はあ……夜中じやなくて今朝早朝な…

ティオー 同じじやん！

ダイオウ……お前もしかしてルドルフのこと好きなのか？

ティオー えつ？好き？そりや好きだよ？だつてカツコいいじやない！憧れの存在だよ？

ダイオウ あつそ：（ルナのからかいが足りなかつたからティオーでやつたけどダメだなこりや…）…なら問題ないんじやないか？

ティオーあるよ！カイチヨーが朝来て…つてもう居ないし！待つてよ～！

（昼休み）

ルドルフ……はあ

エアグルーヴ 会長？どうかしましたか？

ルドルフ いや……なんでもないよ……

エアグルーヴ そうですか……そういえば最近ウマ男の…ダイオウでしたか？そのウマ男とは仲が良いと聞きましたが本当ですか？

ルドルフ ああ……彼は昔からの幼馴染みでね…私の理想でもおり憧れだからね…なかなか素直ではないが…

エアグルーヴ そうでしたか…そう言えば昔彼がシンボリ家のお嬢様を泣かせたと聞いたのですが…

ルドルフ：正確には違うがね…そうだね……まあ…色々語弊があつたのだが…私がもう少ししつかりしてればあんなことにはならなかつたのだろうが…

（回想）

ダイオウ ほらルナ…はやく来ないとおいてくぞ？

ルナ……まつてよ～

ダイオウ …仕方ないな…

（ダイオウがルドルフの手を握る）

ルナ うわあ！クロちゃんいきなり握つたらびっくりするよ…

ダイオウ ん？ああごめん……つい昔の癖で…

ルナ もう！…

（プラー）

（道路の真ん中に子供が居りトラックが来ている）

ダイオウ !ルナ！ここで待つてろ！

ルナ えつ？

(ダイオウが腰を低くし高速で走り出す)

(子供とトラックが接触するかしないかの所でダイオウが子供を抱き抱えて歩道に行く)

ダイオウ 君…大丈夫か?…

子供 …

ルナ クロちゃん!

(ルナがダイオウに近づく)

ルナ ! クロちゃん! 肩!

(ダイオウの右肩から血が出ている)

ダイオウ 子供をかばつて走つたら擦れてたわ…イツテ…

男 救急車だ! 救急車を!

「回想終わり」

ルドルフ……そんなことがあったのだよ…

エアグルーヴ それはまた随分と無茶をしたのですね…

ルドルフ……あの時は本当にビックリしたよ……まさかあんなど

ころに子供が居るなんて思わなかつたからな…

エアグルーヴ それでその怪我は治らなかつたんですか?

ルドルフ いや……その時に病院に運ばれて精密検査したら皮膚が削れただけでほとんど以上はなかつたみたいだ1週間程入院して完治したみたいだつたな…

エアグルーヴ……普通では有り得ないスピードで走つたと母から聞きましたが…本當ですか?…

ルドルフ……ああ……事実だ……私も信じられなかつたがな…

それに…あの時…彼のほんの一部の本気を見れた気がするよ…フフツ…本の一部の本気を見れた気がする…今度ダイオウに聞かせてみるか…フフツ…

エアグルーヴ ……

《エアグルーヴの調子が下がった》

(放課後)

沖 ようし今日はダイオウ! 2、3日トレーニング休んでたんだから今日はしつかりやつてもらうぞ!

ダイオウ もちろん…じゃないと体力が落ちちまうからな…

沖 テイオーは今日は休んでいいぞ！

ティオー なんで？

（沖がティオーに小さい声で話す）

沖 （ちょうどダイオウが眞面目にトレーニングするんだ…見る価値はあるぞ…）

ティオー（確かに…）わかつた！

ダイオウ（何が見る価値はあるだ…ティオーの今日のトレーニング考えるの忘れただけだろ…）はあ…

沖 さあダイオウ 坂路30回だ！

ダイオウ えつ？それだけ？

沖 えつ？それだけってお前…ミホノブルボンでも20回ぐらいでへばるぞ…

ダイオウ（どうする？男子校に居たときに日光から山の中走つて坂路だけじや物足りないんだが…まあいいか たまにはこう言うのに合わせるのも言いかもしれないし）わかつた

沖 そうか…なら早速行くか！

ダイオウ おう！

『ダイオウが走る』

ダイオウ 終わったな？俺はまだ走れるが…まだ走るか？

沖 …お前…本当に何ともないのか？

ダイオウ ああ…まだ行けるぞ

沖 いや…ここまでにしよう…今日は解散！明日改めてお前のメニューを作り直す また明日な

（沖が急いで去っていく）

ダイオウ わかつた…（つてバクシン的な速さで去つていったな…まあ俺の体力が予想以上にあつたからな…俺もまさか30回坂路でバテないとは思わなかつた…）

ティオー ねえダイオウ…

ダイオウ ん？なんだ？ティオー

ティオー 本当に足…何ともないの？

ダイオウ ああなんともないな…

ティオー そ…そうなんだ…

ダイオウ ?それにしても久しぶりに走つたら熱くなつたな…上
着脱ご…：

(ダイオウが上着を脱ぐ)

(脱ぐと右側が長袖で左側が半袖と言つたバランスが崩れているス
パツツを着て いる)

ティオー ねえ?どうして右と左でこんなに違うの?

ダイオウ ん?あゝこれか…昔な…色々会つて子供を助けるとき
に右肩に大きな傷が出来てな…消すことも出来たんだけど俺は消さ
ない事にしたんだ…

ティオー どうして?消した方がいいんじやないの?

ダイオウ …そう言われると昔の俺はどうしてそう選んだんだろ
うな…まあ昔の俺は勲章が欲しかつたのかもな…ハハ…

ティオー フーン…

ダイオウ さて…もうトレーニング終わつたし俺は部屋に帰るぞ
ゞまた明日なティオー

ティオー う…うん!また明日ね

最後の黒い一冠

(京都競馬場)

（）京都競馬場で最後の一冠をかけてウマ娘やウマ男たちが走ります 菊花賞！一番人気はこのウマ男 ダイオウ！本部からの特別出場です

（待ち合い室）

ダイオウ すううふううこの感覚も久しぶりだな：

コンコン

（扉をノックされる）

ダイオウ どうぞ：

（扉が開く）

（シンボリグランと車イスに乗った洋子が入ってくる）

ダイオウ 洋子ちゃん 来てくれたんだ

洋子 うん！ダイオウさん 頑張つてね

ダイオウ ありがとう 頑張るね

（ダイオウがシンボリグランの方を見る）

（扉が開く）

沖 ダイオウ入るぞ ん？久しぶりだなグラン

グラント：なんであんたが居るんだか…と思つたらあつちの学園に行つてたんだっけか：

ダイオウ なんだ？二人知り合い？

沖 知らない

グラント 知らねえ

ダイオウ 今明らかに！知り合いのような言い方だつたぞ！嘘つけ！

洋子 アツハハ！

グラント そうだ。俺は少しダイオウと話があるからトレーナー悪いが先に洋子ちゃんを連れて観客席に行つてくれ アモローと洋子ちゃんのおじさんが居るから

沖 ちよつ！

グラント 賴んだぞ！

(グラントが沖に洋子ちゃんを任して外に出す)

ダイオウ なんだよ？ グラン…話つて？

グラント 勝てるのか？

ダイオウ ……フツ！ そんなこと聞いて…愚問だと思うんだが？

グラント 僕も貴様の実力を信用していない訳じやない 貵様が勝つてくれれば洋子ちゃんの病気の回復にも繋がると思つたし、マスターが許可を出したから今回のレースの観戦を僕が同伴と言うことで来たんだ：

ダイオウ わかつてるさ…だから…このレースは…圧倒的な強さを見せつけるレースを見せつけるつもりさ

グラント そうか…それにあつちの方でもお前に期待してる人が居るんだから裏切るなよ…

ダイオウ それはどういう？

グラント 兄弟は大切にしろってことさ…それ以上は俺の口から言えん…観客席で見てるぞ…

(グラントが出ていく)

ダイオウ …兄弟…か…

(観客席特別室)

(特別室に黒須が居る)

クロス 遅くなりました…

黒須 おおクロスか…待つてたぞ…

クロス 生徒会の仕事が手間取りまして…

黒須 仕方がないことさ…最後の一冠…ダイオウはどれるかの？

クロス あいつなら取れますよ

黒須 そらそろ…ワシにも話してくれんかの？ ダイオウがなぜ突然レースに出なくなり転校してからレースに出ることになつたのか？

クロス このレースが終わつたらにしましよう

黒須 それもそうだな…

(ゲート)

さあゲートに收まりましてスタートしました！

なつ！なんと！ダイオウが逃げの策をとりました これは大逃げです!! 五馬身！六馬身とさらに差が開いていく！既にかかつているのか?! 大きく離れた後続には3番・5番・4番と最後方までざつと25馬身！縦長です 先頭のダイオウは既に第四コーナーをカーブ最初のホームストレッチにかかつっています！これは中野さんどうでしようか？

中野 カかつているのかもしませんね…どこかで息を入れるタイミングがあればいいんですけど…

沖 …

グララン どうやら逃げの策は出してなかつたぽいな

沖 当たり前だ…3000㍍の距離を逃げるなんて体力が持たない…

い：

グララン そうかな？

沖 えつ？

グララン あいつの体力を信じてやれ…元トレーナーだろ

沖 元じやない 現だ…

グララン すまん すまん 現トレーナー…だろ？

沖 そうだな 信用してない訳じやない…だけど…

グララン 分かつてる…心配なんだろ…

さあ！既に超ハイペース！先頭のダイオウは第1コーナーから第2コーナーを回ります後ろは3番・5番・4番と変わっていませんが先頭とは既に10馬身の差があります。早めに仕掛けないとどちらえることは難しい！

ダイオウ ふう…（そうだ…これが…これが本気のレースだ…）

(ダイオウの足がもたつく)

ダイオウ (やべ…)

おつと！ダイオウ！失速！大逃げを行つた代償でしょうか？故障でしようか？観客席から悲鳴が上がつております！

ウマ娘・男 (今だ…)

後続がダイオウの失速を見て全員が一斉に仕掛けに入つた！まだ

第3コーナーに入るところゴールまで半分もあるが体力は持つのか
！ダイオウとの距離はざつと5馬身まで一気に縮んだ！

ダイオウ！

おおつと！ダイオウ 失速しましたが体勢を建て直しました！先頭は譲らない！ダイオウ以前として先頭！もうすぐ最後の直線だ！先頭は以前ダイオウ！ダイオウスピードは落ちない

ウマ娘（なんで！）

ウマ男（追い付けない！）

洋子 わあ！

店長 洋子…よく見るんだぞ…あれがダイオウ君の本気の走りだ

洋子 うん！

200kgを切りました！先頭はダイオウ！既に9馬身！10馬身と離していく！これはセーフリーリード！京都競馬場に…この京都競馬場に黒い大輪の花が咲き誇った！

三冠達成！

アモロー やはりダイオウ君なら余裕だつたか！

グラン アモロー…

アモロー なんだね？グラン君！

グラン 居たのか？

アモロー ああ！さつきから居たじやないか！

グラン ああ…たく…お前には煽りが効かないんだよな…なぜだ…ダイオウとかなら面白い反応するのに…

アモロー ん？どう言うことだ？

グラン まあいい 忘れろ…

洋子 すごい！

店長 そうだな…

タイムが出ました…なんと！タイムは3.00.0ちょうどです
！レコードを叩き出しました！

グラン こりや…どんでもない勝ち方をしてくれたな あいつは

…

アモロー さすがダイオウ君だ！ハハハ！

(記者会見)

ダイオウさん スタート後大逃げをとりましたがこれはトレーナーと話をして決めたのですか？

ダイオウ いえ…私が勝手にレース前に決めたことです

なぜ？そのようなことを？

ダイオウ はい 私の走りを見て元気になつてほしい子が居ます その子のためにあるような走りをしました

女の子 あ…あの！

ダイオウ ん？

(茶色い髪の毛の女の子が居る)

ダイオウ (どうやつて忍び込んだのやら)

女の子 あ…あ…

ダイオウ どうしたんだい？

女の子 わ…私…リツ…

ダイオウ (苦笑い) だ…大丈夫…ゆつくりでいいからね

リツキー わ…私リツキーボールドって言います！

ダイオウ ! (リツキー ボールドつてつて神様が夢の中で菊花賞 勝つたら出てくるような事行つてたな…まさか…こんなに早く会う 事になるとは思わなかつたけど…) そうか…リツキー ボールドつて言 うのか…いい名前だね…

リツキー 私…ダイオウさんみたいな強いウマ娘になります！

ダイオウ そうか…期待してるよ(いや～俺よりもすごい成績だか らね…君…引退するまで無敗だし…)

菊花賞のその後

リツキー はい！

ダイオウ ジやあまたね……

アモロー どうしたんだ？

グラン ダイオウめ：

アモロー 何か用なのか？

グラン いや…お前も早くトレーナーを見つけてレースに出ないとな…

アモロー その通りだな！ハハハ！早くダイオウ君とグラン君とレースで競いあいたいものだ！

グラン 相変わらず声がでかいな…

（グランが去っていく）

アモロー どこに行くのだ？

グラン 洋子ちゃんの所だ…

（休憩室）

（沖がダイオウに近づいてくる）

沖 ダイオウ…おめでとう

ダイオウ 沖か…ありがとう…まあ…悪かつたな…お前には逃げの話をしなくて…

沖 別にいいさ…それが洋子ちゃんって子のためってことならなダイオウ…悪いな…

沖 どうした？ お前らしくない？

ダイオウ 三冠事態が夢を見てるみたいな感じでな…元々レースに出ることは許されていないんだからな…

沖 その理由を俺にそろそろ教えてほしいんだがな…

ダイオウ …いずれ話すよ…

沖 いずれって…お前のいずれは當てにならないからな…

ダイオウ フフ…さあな…

沖…ハア…そうか…

ダイオウ それにしてもさすがに久しぶりに3000mはきつ

かつたな…

沖 そうか…なら！今日は俺の奢りだ！食いに行くぞ！

ダイオウ おつ！いいね！もちろん全員分な…

沖…マジかよ…

ダイオウ 当たり前だろ？

沖 ハア…足りるかな…

ダイオウ まずそこか…

沖 まあな…

(洋子ちゃんや店長が部屋に入つてくる)

店長 ダイオウ君 三冠おめでとう！

洋子 ダイオウさんおめでとう！

ダイオウ マスター…洋子ちゃん！ありがとうございます！洋子ちゃん…俺の走りは凄かつたろ？

洋子 うん！あんなに逃げて勝つたの始めて見た！カッコよかつたよ！

よ…

(グランが部屋に入つてくる)

グラン さて…洋子ちゃんそろそろ病院に戻ろうか…

洋子 うん！バイバイ ダイオウさん！

ダイオウ またお見舞いに行くね またね

(グランと洋子が部屋を出していく)

店長 ありがとう ダイオウ君…洋子のために…

ダイオウ マスター…お礼はやめてください 僕は洋子ちゃんのために走つただけですから…それに洋子ちゃんが良くなつたらマスターの店でお疲れさま会開くので覚悟してくださいね

店長 フツ…わかつた…仕入れておこう

ダイオウ コーヒー牛乳とマスター特性パンも用意しておいてくださいね

店長 もちろんだ…

(店長が部屋を出していく)

ダイオウ さて…帰るとしますかね

沖 そうだな…

ダイオウ あれ? そう言えば

沖 なんだ?

ダイオウ テイオーはどうしたんだ? 来るような事を言つてたが

沖 あゝルドルフ会長と見に行くと言つてたぞ

ダイオウ ルナ…ゴホン! ルドルフと?

沖 (ルナ?) あ…ああ…

ダイオウ そ…そ…うか…

沖 ?

(数日後)

(トレセン学園 ダイオウの部屋)

ダイオウ ハア…

テイオー どうしたの? 溜め息なんかついて?

ダイオウ テイオー…俺の部屋はウマ娘の休憩所や憩いの場じや
ないんだが…

テイオー マックイーンは用事で居ないんだもん…

ダイオウ 相部屋のマヤノトツブガング居るだろ?

テイオー マヤノは友達と街に遊びに行つてるもん

ダイオウ …ハア…(ダメだな…テイオー…ルナにはなぜが本氣で
怒れない…何でだろう…つて思つたらダイオウの血統つてルドルフ
の子でテイオーの兄設定だつたつけ…すつかり忘れてた…ちなみに
異論は認めん)

テイオー ねえ! 聞いてるの?

ダイオウ ん? ああ…悪い考え方してた

テイオー もう

ダイオウ 悪い悪い…

テイオー そう言えばダイオウが菊花賞勝ったのに次の日の新聞

には乗つてなかつたね…

ダイオウ …そこは余りわからなくていいんだよ

テイオー 良くないよ! ダイオウがカイチヨーと同じ三冠取つた

のにまるでそれがなかつたみたいに扱つて…

ダイオウ テイオー 気持ちは嬉しいが…今はそれでいいんだ…
ティオー どうして!?

ダイオウ まあいつか話す…

(回想)

(菊花賞一日後)

(電話がなる)

ダイオウ 誰だよ…こんな朝早くに…

(ダイオウが電話に出る)

ダイオウ もしもし…

黒須 ダイオウか? 私だ

ダイオウ おじいさま…お久しぶりです

黒須 うむ…すまないが次の仕事があつて要件だけを言うぞ

ダイオウ はい…

黒須 菊花賞勝利おめでとう…そしてよく頑張つた…

ダイオウ ありがとうございます

黒須 それとこれが本題だ…

ダイオウ はい (親父の事か?)

黒須 今日の新聞はなんの変哲もない新聞だ…ダイオウの三冠の話はインターネットにもどこにも乗つていない…それは了承していくれ

ダイオウ わかりましたが…それはなぜ?

黒須 ダイオウが一番わかっているはずだが?

ダイオウ ……

黒須 まあダイオウが何も言わないのであれば私は影から応援する…だが孫が困つたことがあつたらどんなことでも助けるそれだけは私もクロスも想いは同じだ…それだけは勘違いしないでくれ

ダイオウ もちろんです…おじいさまにもアニキにも感謝しています

黒須 そうか…まあ理由はわかっているだろうから説明はいらな
いな…

駒形（会長…そろそろ…）

黒須 うむ わかつた…それじゃダイオウ次のジャパンCも頑張つてくれ

ダイオウ はい…ありがとうございますお手を取らせてしますみません

黒須 孫が爺に手を困らせるのは問題ないことだ…気にするな…それじゃ…

（ダイオウが電話を切る）

（回想終了）

ティオー どうしたの？さつきからぼつーとして

ダイオウ いや…考え方…

ティオーふくん…あつ！そうだ！ねえ！今度カイチヨーとハチミー飲みに行くんだけどダイオウも一緒に行こうよ！

ダイオウ…いや、俺ハチミーそこまで…

ティオー ダメなの…（ウルウル）

ダイオウ ……（ぐつ…なんて破壊力…）わ…わかつた…行つてみるか…気晴らしに

ティオー ヤツタ－！決まりだね ニシシ

ダイオウ（ティオーにハメられた気がする…）

ルドルフ 失礼するよ…

ティオー あつ！カイチヨー！

ダイオウ だからここは憩いの場じゃないんだつての…

ルドルフ ?

ダイオウ それで？何しにここに？

ルドルフ ダイオウの次のレースが決まつたから伝えに来たんだ

ダイオウ 有馬記念か？それとも？

ルドルフ ジャパンCだ

ダイオウ ほうほう…（あれ？そう言えばおじいさまと電話で話してる時にそんなこと言つてたような…言つてなかつたような…気にしてなかつたからな…まあどうでもいいけど…）

ルドルフ フフツ

ダイオウ なんだよ…人の顔見て笑つて…

ルドルフ いやすまない…部屋に入る前にダイオウとティオーのやり取りを見ていたらつい…

ダイオウ 見てたのかよ…つて昔のルドルフも俺が旅行行かな
いつて言つて駄々をコネたときはあんな感じだつたぞ…

ルドルフ そうだつたか?

ダイオウ そうだつたよ…それで俺が行く事になつたら明るい顔
してくルナ幸せくつて言つてたろ…

ルドルフ 待て…いさきか私の記憶と違うところがあると思うの
だが…

ダイオウ どういうところが?

ルドルフ ル…し…幸せなどといつた覚えはない
ダイオウ ん?…あゝそうか…なるほど…へえ…(ニコニコ)

ルドルフ な…なんだい?

ダイオウ いや…すまない…一つ俺も勘違いしていた…

ルドルフ そうだ…

ダイオウ ルドルフが眠つているときに寝言で言つてたんだつた
…そうちだつたよな…ルド…

(ルドルフがいつの間にか部屋から出ていつている)

ティオー あれ? カイチヨー! 居ない!

ダイオウ ちつ! 逃げたか…(寝言で言つてたのは覚えてたのかよ
…今この今まで覚えてるつてどんな夢だつたんだよ…)

(生徒会室)

エアグルーヴ ……か…会長…

(ルドルフの頭から煙が出ている)

ルドルフ ど…どうした…エアグルーヴ…

エアグルーヴ だ…大丈夫ですか? 顔も赤いですし…お休みになつたほうが…

ルドルフ いや…大丈夫だ…(クロにあの時の寝言聞かれていた

…)

(夢の内容を思い出す)

ダイオウ ルナ：

ルドルフ どうした？クロ

ダイオウ ルナ：

(ダイオウが膝を付き指輪を出す)

ダイオウ 僕と結婚してくれないか？

ルドルフ !こんな私とでいいのか？

ダイオウ 何言ってる ルナだからいいんだよ

ルドルフ …喜んで…

「カーンカーン」

ルドルフ ルナ…幸せ…

(夢終了)

ボン！

ルドルフ あ…

(ルドルフが倒れる)

エアグルーヴ か！会長！

(生徒会室の扉が開く)

たづな クロス会長をお連れしましたよ…

(たづなが現状を見る)

たづな 大丈夫ですか!?医務室の先生呼んできますね！

(たづなが部屋を出していく)

クロス …あれ？私は？